

講義科目名称：英作・文法 I

授業コード：

英文科目名称：Eng. Grammar through Comp. I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(0-4)	選択必修B
担当教員			
スミス 陽子			

授業のテーマ及び到達目標	文の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。		
授業計画	第1回	文のなりたち、文の種類	
	第2回	動詞と文型	
	第3回	動詞と時制（現在形と現在進行形）	
	第4回	動詞と時制（過去形と過去進行形、未来を表す表現）	
	第5回	完了形（現在完了形と現在完了進行形）	
	第6回	完了形（過去完了形と過去完了進行形）	
	第7回	助動詞（能力・許可、義務・必要）	
	第8回	助動詞（可能性・推量、will, would shall, need, used to）	
	第9回	態	
	第10回	不定詞	
	第11回	不定詞の意味上の主語、使役動詞、知覚動詞を使った表現	
	第12回	動名詞	
	第13回	分詞	
	第14回	分詞構文	
	第15回	比較	
	第16回	関係代名詞	
	第17回	関係副詞	
	第18回	句と節	
	第19回	仮定法	
	第20回	疑問文	
	第21回	否定	
	第22回	話法	
	第23回	名詞構文・無生物主語	
	第24回	名詞	
	第25回	冠詞	

	第26回 代名詞 第27回 形容詞 第28回 副詞 第29回 前置詞 第30回 接続詞 第31回 定期試験
授業の概要	英文を書く練習を通して既習の基本的な文法事項を復習・再確認させ、定着を図る。
予習	テキストを読んで理解しておく。できれば、他の英文法参考書も見る。
復習	既習の事項を見直し、わからなかったところをチェックする。
テキスト	総合英語フォレスト（第7版）、プリント
参考書	総合英語フォレスト（第7版）
評価方法・評価基準	定期試験60%、宿題や小テスト40%
履修上の注意	辞書と英文法参考書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。

講義科目名称：英作・文法Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Eng. Grammar through Comp. Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	2単位(0-4)	選択必修B
担当教員			
山里 恵子・仲座 栄利子			

授業のテーマ及び到達目標	文法を活用して、簡単な質問とそれに対する回答、短い伝言、報告、依頼、指示等の実際的な場面に必要とされる英文が書けるようになる。
授業計画	<p>第1回 文の種類（疑問文・命令文の応用形）</p> <p>第2回 動詞と文型（注意すべき動詞）</p> <p>第3回 動詞と時制（注意すべき用法）</p> <p>第4回 文型と動詞</p> <p>第5回 時や条件を表す接続詞の後に用いる現在形、進行形の注意すべき用法</p> <p>第6回 未来を表す様々な表現</p> <p>第7回 完了形（未来完了形）</p> <p>第8回 「今」に視点を置かない現在完了形</p> <p>第9回 動詞の形の決め方、時制の一致</p> <p>第10回 助動詞+have+過去分詞</p> <p>第11回 助動詞を含む慣用表現</p> <p>第12回 that節で用いられるshouldの用法、助動詞のまとめ</p> <p>第13回 受動態のさまざまな形</p> <p>第14回 注意すべき受動態の表現、準動詞とは</p> <p>第15回 不定詞のさまざまな形</p> <p>第16回 不定詞の注意すべき用法</p> <p>第17回 動名詞のさまざまな形</p> <p>第18回 動名詞を使った重要表現、動名詞と不定詞</p> <p>第19回 分詞構文の応用</p> <p>第20回 分詞を使った表現、英語の情報構造</p> <p>第21回 原級、比較級、最上級を用いたさまざまな表現</p> <p>第22回 「譲歩」を表す複合関係詞</p> <p>第23回 関係代名詞の働きをするas, than</p> <p>第24回 関係代名詞のさまざまな用法</p> <p>第25回 関係形容詞</p>

	<p>第26回 未来を表す仮定法、ifのない仮定法、仮定法を使った慣用表現</p> <p>第27回 疑問文のさまざまな形、疑問文の慣用表現</p> <p>第28回 否定の慣用表現、否定語を使わない否定表現</p> <p>第29回 間接話法の応用形</p> <p>第30回 強調、倒置、挿入、省略、同格</p> <p>第31回 定期試験</p>
授業の概要	「英作・文法Ⅰ」で学習したことをさらに深めていく。具体的には、英文法の諸項目を十分に理解し、正しい英文を書く能力を養う。
予習	テキストを読んで理解しておく。できれば、他の英文法参考書も見る。
復習	既習の事項を見直し、わからなかったところをチェックする。
テキスト	総合英語フォレスト（第7版）、プリント
参考書	総合英語フォレスト（第7版）
評価方法・評価基準	定期試験60%、小テストや宿題40%
履修上の注意	辞書と英文法参考書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。

講義科目名称：Paragraph Writing I

授業コード：

英文科目名称：Paragraph Writing I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1・2年	2単位(2-0)	選択必修B
担当教員			
スミス 陽子			

授業のテーマ及び到達目標	英作文の基礎となるワン・パラグラフ エッセイ (one-paragraph essay) の書き方を習得する。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン、パラグラフとは、パラグラフの構成</p> <p>第2回 主題文とは</p> <p>第3回 支持文とは</p> <p>第4回 連語文とは</p> <p>第5回 ブレイン・ストーミング</p> <p>第6回 アウトラインを書く</p> <p>第7回 統一性とは</p> <p>第8回 統括性とは</p> <p>第9回 Editing stage</p> <p>第10回 Classification Paragraph</p> <p>第11回 Description Paragraph</p> <p>第12回 Comparison or Contrast Paragraph</p> <p>第13回 Sequencing Paragraph</p> <p>第14回 Cause and Effect Paragraph</p> <p>第15回 From Paragraph to Essay</p>
授業の概要	典型的な英文パラグラフの構成と展開法を学び、モデルエッセイを参考にして様々なトピックについてワン・パラグラフエッセイを書く。書く活動を通して、英語で明確に説明し、論理的に表現する能力を養う。また、「英作・文法Ⅰ」、「英作・文法Ⅱ」で学んだ文法を確実なものとし、英語運用能力の向上を図る。
予習	モデルエッセイを読み、概要を把握しておく。
復習	展開法に基づいてエッセイを書く、あるいは校正する。
テキスト	Strategies for Paragraph Writing 『読んで、聞いて、書くパラグラフ』英宝社 2004年 初版 1800円(税別)
参考書	無し。
評価方法・評価基準	提出物 (one-paragraph essay) 50%、授業貢献度 (class participation) 50%をもとに総合的に評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から英文を読む時は、トピックセンテンスに注目しつつ、パラグラフの大意をくみ取るよう心がけること。 ・課題エッセイの提出期限を厳守すること。

講義科目名称 : Paragraph Writing II

授業コード :

英文科目名称 : Paragraph Writing II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択必修B
担当教員			
山城 莉乃			

授業のテーマ及び到達目標	To build on the students' ability in English composition and extend it to a full (five-paragraph) composition.
授業計画	<p>第1回 Introduction+writing short essay</p> <p>第2回 Review of Paragraph Structure</p> <p>第3回 Unity and Coherence in writing</p> <p>第4回 From Paragraph to Short Essay</p> <p>第5回 Editing your Writing</p> <p>第6回 Descriptive Essays</p> <p>第7回 Descriptive Essays</p> <p>第8回 Narrative Essays</p> <p>第9回 Narrative Essays</p> <p>第10回 Progress Assessment</p> <p>第11回 Opinion Essays</p> <p>第12回 Opinion Essays</p> <p>第13回 Comparison and Contrast Essays</p> <p>第14回 Comparison and Contrast Essays</p> <p>第15回 Final Assessment and Review</p> <p>第16回 Final Test ? Writing Essay</p>
授業の概要	Different applications of the multiple-paragraph composition are practiced. Attention is given to ideas, creativity and to style, including form, grammar, sentence structure, and punctuation.
予習	Students should preview each lesson's material before the next class.
復習	Students should review each lesson's materials before the next class.
テキスト	Various books are used, depending on the instructor.
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>1. Quizzes/ Volunteer (30%)</p> <p>2. In class activities (10%)</p> <p>3. Homework assignments (20%)</p> <p>4. Final Essay (40%)</p>
履修上の注意	特になし

講義科目名称：高等英文法

授業コード：

英文科目名称：Advanced English Grammar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(2-0)	選択必修B
担当教員			
作田 真由子・山城 莉乃			

授業のテーマ及び到達目標	大学生として英語で意見を述べる事ができる英文法力を養う		
授業計画	第1回	Introduction & Unit 1 - 2	文型
	第2回	Unit 3 -6	進行形、現在完了、過去完了、完了進行形
	第3回	Unit 7-8	助動詞
	第4回	Unit 9-11	受動態
	第5回	Unit 12-13	不定詞
	第6回	Unit 14- 15	分詞、分詞構文
	第7回	Unit 16	動名詞
	第8回	Unit 17 -20	比較、最上級
	第9回	Unit 21-23	関係代名詞、関係副詞
	第10回	Unit 24	仮定法
	第11回	Unit 25	話法
	第12回	Unit 26	複文構造
	第13回	Unit 27	様々な副詞節
	第14回	Unit 28	否定表現
	第15回	Unit 29-35	名詞、代名詞、冠詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞
	第16回	期末試験	
授業の概要	英文法・英作文Ⅰ＆Ⅱで学んだことを基礎に更に高度な文法について学び、文法的に正しい英語を自信をもって書き話せるようにする。また自分の英語が文法的に正しいかどうかを判断し、誤りを自分で修正する能力を磨く。日本人の苦手とする文法事項について特に集中的に学ぶ。自分の書いた英文を口頭で発表する機会を出来るだけ多くする。		
予習	指定された箇所の練習問題を解いて授業に臨む。		
復習	既習事項の徹底を図る。		
テキスト	Second Steps to English Grammar, 大阪四郎著、南雲堂		
参考書	総合英語フォレスト (第7版)		
評価方法・評価基準	定期試験60%、小テスト・発表40%		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・頻繁にQuizを行うが、文法学習を英作文・口頭発表に役立てるものとして取り組むこと。 ・英文法・英作文Ⅰ＆Ⅱを履修済みか、それ相当の実力がある学生が受講すること。 		

講義科目名称：英語講読Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：English ReadingⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(0-4)	選択必修C
担当教員			
山里 恵子			

授業のテーマ及び到達目標	パラグラフごとに大意をつかみ、長文であっても内容を把握できる。読解を通して語彙力、文法力も増強する。		
授業計画	第1回	イントロダクション	It' s a Long Way to the Top
	第2回		It' s a Long Way to the Top
	第3回		Singapore' s Chingay Parade
	第4回		Singapore' s Chingay Parade
	第5回		English for Better or for Worse
	第6回		English for Better or for Worse
	第7回		How Important Is Education to You
	第8回		How Important Is Education to You
	第9回		From Anime to Zen
	第10回		The Storm
	第11回		Public Work for the State and the Citizens
	第12回		Riding an Old Steam Train
	第13回		Farm Stays
	第14回		Is Sunshine Really Bad for Us?
	第15回		What' s in a Name?
	第16回		You are What You Eat
	第17回		A Car for the Blind?
	第18回		Talking Drums
	第19回		The Future for Farmers
	第20回		The Extraordinary Steve Jobs
	第21回		A Cool Memory
	第22回		Holmes? Watson?
	第23回		Aussie English
	第24回		Garfield
	第25回		Climbing

	第26回 Lost in Translation 第27回 Preservatives 第28回 The Tramp 第29回 Presenting Successfully 第30回 “What if…” 第31回 Exam
授業の概要	中級レベルの英語で書かれたテキストを使用する。読む(Reading)ことに主眼をおいた授業であるが、内容に関するDiscussion やWriting の練習も加味し、話す力・書く力の向上にも努める。
予習	語彙を調べて、自分で訳してみる。
復習	語彙を覚える。関連する文法項目を文法書でもう一度読む。
テキスト	北山長貴 他 (著) New English Master (『リーディングにつなげる英文法』成美堂 2016年)
参考書	特になし
評価方法・評価基準	定期試験60%、小テスト20%、発表20%
履修上の注意	テキスト、練習問題を予習して授業に臨むこと。

講義科目名称：英語講読Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	2単位(0-4)	選択必修C
担当教員			
作田 真由子・仲座 栄利子			

授業のテーマ及び到達目標	パラグラフごとに大意をつかみ、長文であっても内容を把握できる。読解を通して語彙力、文法力も増強する。		
授業計画	第1回	イントロダクション	Chapter 1 A Cultural Difference:Being on Time
	第2回		Chapter 1 A Cultural Difference:Being on Time
	第3回		Chapter 1 A Cultural Difference:Being on Time
	第4回		Chapter 2 Changing Lifestyles and New Eating Habits
	第5回		Chapter 2 Changing Lifestyles and New Eating Habits
	第6回		Chapter 3 Technology Competes for Family Time
	第7回		Chapter 3 Technology Competes for Family Time
	第8回		Chapter 3 Technology Competes for Family Time
	第9回		Chapter 4 Language: Is It Always Spoken?
	第10回		Chapter 4 Language: Is It Always Spoken?
	第11回		Chapter 4 Language: Is It Always Spoken?
	第12回		Chapter 5 Loneliness: How Can We Overcome It?
	第13回		Chapter 5 Loneliness: How Can We Overcome It?
	第14回		Chapter 5 Loneliness: How Can We Overcome It?
	第15回		Chapter 6 The Importance of Grandmothers
	第16回		Chapter 6 The Importance of Grandmothers
	第17回		Chapter 6 The Importance of Grandmothers
	第18回		Chapter 7 The Reliability of Eyewitnesses
	第19回		Chapter 7 The Reliability of Eyewitnesses
	第20回		Chapter 7 The Reliability of Eyewitnesses
	第21回		Chapter 8 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System
	第22回		Chapter 8 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System
	第23回		Chapter 9 Solving Crimes with Modern Technology
	第24回		Chapter 9 Solving Crimes with Modern Technology
	第25回		Chapter 10 Ancient Artifacts and Ancient Air

	<p>第26回 Chapter 10 Ancient Artifacts and Ancient Air</p> <p>第27回 Chapter11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics</p> <p>第28回 Chapter11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics</p> <p>第29回 Chapter 12 Mars Our Neighbor in Space</p> <p>第30回 Chapter 12 Mars Our Neighbor in Space</p> <p>第31回 定期試験</p>
授業の概要	中級レベルの英語で書かれたテキストを使用する。テキストに出てくる語句のテストをしたり、それらの語句を使って作文を書いたりする。テキストの内容に関連した副教材を使用することもある。
予習	語彙を調べて、自分で訳してみる。
復習	語彙を覚える。関連する文法項目を文法書でもう一度読む。
テキスト	山科 美和子他（著）Reading Choice-Skills for Academic Success（『現代のトピックを読むためのリーディングスキル』 Cengage Learning, 2013年）
参考書	総合英語フォレスト（第7版）
評価方法・評価基準	定期試験60%、課題や小テスト40%
履修上の注意	履修上の注意： 辞書と英文法参考書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。

講義科目名称 : Current Issues in English

授業コード :

英文科目名称 : Current Issues in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修C
担当教員			
Michael Bradley			

授業のテーマ及び到達目標	*
授業計画	<p>第1回 Introduction. Tales of hope from the Tsunami.</p> <p>第2回 Bases in Okinawa.</p> <p>第3回 The Hague Convention.</p> <p>第4回 The Migrant Crisis in Europe.</p> <p>第5回 Agent Orange in Okinawa.</p> <p>第6回 Islamist violence.</p> <p>第7回 Tabloids and Broadsheets.</p> <p>第8回 Henoko.</p> <p>第9回 Students write a script for a video report.</p> <p>第10回 Mid-term test ? Students introduce a Japanese news story.</p> <p>第11回 Environmental news.</p> <p>第12回 A foreigner' s view of Okinawa. (A BBC radio report.)</p> <p>第13回 Japan' s ageing population.</p> <p>第14回 Lance Armstrong ? a cautionary tale</p> <p>第15回 Lighter stories from Japan and abroad</p> <p>第16回 Final Test ? students introduce a Japanese news story.</p>
授業の概要	The purpose of this course is to introduce students to English as it is used in the media. It aims to: build students' vocabulary; develop a greater awareness of local, national, and international issues; and increase their ability to express themselves.
予習	Students should familiarize themselves with the topic before every class, to enable them to better understand the lesson.
復習	Students will usually be asked to write a short report after every class giving their reaction to that week' s topic.
テキスト	No textbook、All the materials are provided by the instructor
参考書	特になし
評価方法・評価基準	Assignments/Classwork: 40%. Two Presentations: 30% each
履修上の注意	特になし

講義科目名称：秘書学概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
スミス 陽子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：自己の適性に合った職業選択ができるよう、客観的な視点で自己分析を深める 関心意欲：自己のキャリア及び就業に対する興味、関心を高める 毎回、新聞レポートを通して時事問題に知識・関心を高める 思考判断：短期、中期、長期に渡るスパンで自己のキャリアを計画し行動する 態度：積極的、意欲的な自己啓発の姿勢を身につけると共に、スーツ等、ビジネス現場に相応しい服装で講義に臨むことにより職業人としての態度を身につける</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODダクシヨン、授業の進め方、評価方法等</p> <p>第2回 第1章 秘書の心構え 社会人としての自覚と心構え 秘書に必要な条件</p> <p>第3回 第1章 小テストと復習</p> <p>第4回 第2章 職務知識 秘書の役割と機能、秘書の職務</p> <p>第5回 第2章 小テストと復習</p> <p>第6回 第3章 一般知識 企業の基礎知識、企業の組織と活動、社会常識</p> <p>第7回 第3章 小テストと復習</p> <p>第8回 学外授業 ビジネス現場訪問</p> <p>第9回 学外授業 ビジネス現場訪問</p> <p>第10回 第4章 マナー・接遇 人間関係と話し方、話し方・聴き方の応用、電話対応、接遇、交際</p> <p>第11回 第4章 小テストと復習</p> <p>第12回 第5章 技能 会議と秘書、ビジネス文書と秘書、文書管理</p> <p>第13回 第6章 技能 資料、日程管理・オフィス管理</p> <p>第14回 技能 小テストと復習</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	<p>秘書業務について理論と実務的な内容を理解する事を目的とします。上司が正しい経営判断を行い社内外で効率的に活動できるように、情報ネットワーク業務や人的ネットワーク業務を通じて積極的にコーディネートするプロフェッショナルへの理解を深めます。</p>
予習	<p>次回の内容を読んでくること。 発表の準備をしっかりとってくること。 課題を期限内に提出すること。</p>
復習	<p>その日学習した内容を再読し、宿題をしっかりとやってくること。</p>
テキスト	<p>編集 公益財団法人実務技能検定協会「秘書検定3級クイックマスター改訂新版」早稲田教育出版</p>
参考書	<p>編集 全国大学実務教育協会「新しい時代の秘書ビジネス論」紀伊国屋書店（購入不要）</p>
評価方法・評価基準	<p>授業への参加度（15%）、課題提出（30%）、受講態度（15%）、発表内容（40%）を総合的に判断し評価します。</p>
履修上の注意	<p>新聞を毎日読むこと。服装はスーツ等、ビジネス現場にふさわしいものを着用すること。</p>

講義科目名称：秘書実務

授業コード：

英文科目名称：Secretarial Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
スミス 陽子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：自己の適性に合った職業選択ができるよう、客観的な視点で自己分析を深める 関心意欲：自己のキャリア及び就業に対する興味、関心を高める 毎回、新聞レポートを通して時事問題に知識・関心を高める 思考判断：短期、中期、長期に渡るスパンで自己のキャリアを計画し行動する 態度：積極的、意欲的な自己啓発の姿勢を身につけると共に、スーツ等、ビジネス現場に相応しい服装で講義に臨むことにより職業人としての態度を身につける</p>
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション、秘書の一日</p> <p>第2回 身だしなみについて、美しい動作</p> <p>第3回 敬語と会話のマナー</p> <p>第4回 電話の対応</p> <p>第5回 接遇のマナー（心得、受付、案内）</p> <p>第6回 接遇のマナー（応接室、お茶の出し方）</p> <p>第7回 訪問のマナー</p> <p>第8回 名刺交換、紹介する、紹介される</p> <p>第9回 食事のマナー</p> <p>第10回 結婚式に招待されたら</p> <p>第11回 訃報を受けたら</p> <p>第12回 ビジネス文書（社内文書、社外文書）</p> <p>第13回 あらたまった手紙、ビジネスeメール</p> <p>第14回 秘書検定に挑戦してみよう</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	秘書の役割を理解し、役割行動を適切にとるための心得と、ビジネス現場に必要な基礎的および応用的知識と実務の修得を目的とする。
予習	シラバスの内容を調べておく。 新聞を読んでくる。
復習	その日学習した内容を再読し、宿題をしっかりとやってくること。
テキスト	クラス毎に資料配布します。
参考書	無し。
評価方法・評価基準	授業への参加度（15%）、受講態度（15%）、課題発表（40%）、課題提出（30%）などを総合的に判断し評価します。
履修上の注意	毎日新聞を読むこと。服装は、スーツ等、ビジネス現場にふさわしい服装で授業に臨むこと。

講義科目名称：経営概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
多賀 寿史			

授業のテーマ及び到達目標	経営学全般にわたる基礎知識を習得し、企業活動に対する理解を深める。
授業計画	<p>第1回 生活を支える企業</p> <p>第2回 経営学を学ぶ意義</p> <p>第3回 自分達で企業を起こしてみよう（グループ作業）Ⅰ</p> <p>第4回 自分達で企業を起こしてみよう（グループ作業）Ⅱ</p> <p>第5回 企業は誰が動かしているのか</p> <p>第6回 企業は何を目指して活動しているのか</p> <p>第7回 経営資源（ヒト、モノ、カネ等）の特徴Ⅰ</p> <p>第8回 経営資源（ヒト、モノ、カネ等）の特徴Ⅱ</p> <p>第9回 経営資源の獲得、利用、配分と経営戦略</p> <p>第10回 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているか</p> <p>第11回 NGO/NPOケーススタディ 国際協力活動</p> <p>第12回 企業はどのようにして製品やサービスを販売しているか（マーケティングという考え方について）</p> <p>第13回 企業はどのようにして人材を活用しているか</p> <p>第14回 企業はどのようにして資金を調達し、運用しているか</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>現代社会において、我々は企業との関わりなしに生活することはできない。我々の多くは、企業を通じて生計を立てている。企業の打ち出す方針によって生活が左右されることもある。</p> <p>本講義は、我々と切っても切れない存在である企業について論じる。具体的には、企業活動は誰によって決定され、実行されているのか、企業の組織はどのようにして組み立てられているのか、組織の各構成部分はどんな機能を果しているのか等、経営学全般にわたって総論し、企業に対する理解度を強めていく。講義は、36年間にわたって国内外の企業に勤務した実務体験と事例を織り込みながら、わかりやすく解説する。</p>
予習	次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること
テキスト	片岡信之他 『初めて学ぶ人のための経営学 (Ver.2)』 文真堂
参考書	<p>坂下昭宣 『経営学への招待』 白桃書房</p> <p>斉藤毅憲 『経営学を楽しく学ぶ』 中央経済社</p> <p>加護忠男・吉村典久 『1からの経営学』 碩学社</p>
評価方法・評価基準	レポート等の課題の提出3割、期末試験7割で評価します。
履修上の注意	本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望します。 配付資料は必ずファイルしておくこと

講義科目名称：沖縄経済論

授業コード：

英文科目名称：Okinawan Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
友利 廣			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：沖縄経済社会の実態把握の考え方・分析視点等を身につける 関心意欲：沖縄経済社会の在り方について常に関心を持つ（経済紙を読む） 思考判断：日本経済との比較分析することで総合的な思考方法を理解 態度：積極的な勉学姿勢
授業計画	<p>第1回 沖縄経済の歩み</p> <p>第2回 沖縄の全体像（Ⅰ）</p> <p>第3回 沖縄の全体像（Ⅱ）</p> <p>第4回 県民経済計算</p> <p>第5回 県民の意識調査</p> <p>第6回 雇用</p> <p>第7回 家計と金融</p> <p>第8回 財政</p> <p>第9回 観光産業</p> <p>第10回 交通産業</p> <p>第11回 沖縄文化の産業化</p> <p>第12回 沖縄の特区（Ⅰ）（金融）</p> <p>第13回 沖縄の特区（Ⅱ）（IT・物流）</p> <p>第14回 沖縄地場産業の未来</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	日本経済は長年のデフレから抜け出し、回復基調にあると報道や政府の見解が発表されている。沖縄も、観光産業が順調で回復基調が続くとの見方がなされている。しかしながら沖縄の一人当たりの県民所得、完全失業率は依然厳しい状況にある事に変わりはない。本講義では基礎的な経済学の知識と用語を習得し、日本経済新聞や地元新聞を読みこなすことによって、現在日本・沖縄経済が直面する状況を把握することに重点を置く。講義では地元新聞および日本経済新聞の記事、経済雑誌の記事を多用し、理解を深めていく。
予習	今回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること
テキスト	毎講義ごとに講義資料を配布する。
参考書	講義ごとに提示する。
評価方法・評価基準	特になし
履修上の注意	特になし

講義科目名称：キャリアガイダンス

授業コード：

英文科目名称：Career Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
松堂 美和子			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の特徴や能力を知り、それらを文章や言葉で表現することができる。 ・将来に向けて具体的な目標を立てる等、自らのキャリアをデザインすることができる。 ・職業観の形成に向けて、必要な情報を収集する力、情報を吟味する力が身につく。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（講義の目的） 大学2年間のステージとサイクル</p> <p>第2回 キャリアデザインって何だろう？</p> <p>第3回 自分を発見しよう①</p> <p>第4回 自分を発見しよう②</p> <p>第5回 ロジカルライティング①</p> <p>第6回 ロジカルライティング②</p> <p>第7回 働くとは① 身近な人をインタビュー</p> <p>第8回 働くとは② 身近な人のキャリアを分析</p> <p>第9回 未来予想図を作ろう</p> <p>第10回 今、求められている人材とは？①</p> <p>第11回 今、求められている人材とは？②</p> <p>第12回 今、求められている人材とは？③ 一般常識模擬試験とその振り返り</p> <p>第13回 表現力を高める①</p> <p>第14回 表現力を高める②</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>「自分らしい生き方」を発見するために、①自分を知る、②他人を知る、③社会を知る、の3つをキーワードに授業を展開します。特に、自分を知るために様々なワーク等を用いることで、自分の将来について内外から考える契機とします。</p> <p>本講義を受講することで、未来を構想する力、計画・実行に移す力、社会人に求められる基礎力、就活に必要なテクニック等を習得することができます。</p>
予習	与えられた課題に取り組んだうえで、授業に臨む
復習	授業での学びを深めるために、日頃から関連する記事や書物に触れることを習慣化する
テキスト	「オリジナル資料」
参考書	講義にて紹介
評価方法・評価基準	※キャリア支援課の利活用、フィールドワークも評価の対象とします
履修上の注意	—

講義科目名称：マルチメディア演習

授業コード：

英文科目名称：Multi-media Applications

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
金城 豪			

授業のテーマ及び到達目標	コンピュータ、及び付属するソフトウェアの一步上を行く使用法や知識を獲得する。また、世界に向けて情報を発信するための技術を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 情報社会への歩み</p> <p>第2回 生活環境におけるコンピュータの位置づけ</p> <p>第3回 高度情報通信網</p> <p>第4回 インターネットの仕組み</p> <p>第5回 HTMLとは</p> <p>第6回 HTML演習</p> <p>第7回 ファイルの管理</p> <p>第8回 メモリーの概念</p> <p>第9回 マルチメディアファイルについて</p> <p>第10回 マルチメディアファイルを扱う(1)</p> <p>第11回 マルチメディアファイルを扱う(2)</p> <p>第12回 Webページ作成(1)</p> <p>第13回 Webページ作成(2)</p> <p>第14回 Webページ作成(3)</p> <p>第15回 課題発表会</p>
授業の概要	コンピュータの基本的操作法を習得したことを前提に、次の段階としてネットワーク社会におけるコンピュータを考えます。Webページ作成を通して、マルチメディアファイルの取り扱い方、種々のソフトウェア利用技術を学習します。また演習と並行して、実社会の事例を紹介しながら情報技術の発達と高度情報化社会の諸問題についても理解を深めます。
予習	毎回次の講義内容を指示するので、各自テキスト等を使用して事前に講義を受ける準備をしておくこと。
復習	講義内容を再確認し、与えられた課題を指示通りに実行し確実に提出できるように努めること。
テキスト	「情報の表現と管理」伏見正則著
参考書	特になし
評価方法・評価基準	小テスト・授業内レポート40% 演習40% 授業態度10% その他10%
履修上の注意	各自USBメモリを準備すること。

講義科目名称：プレゼンテーション概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	相手に伝わるプレゼンテーションについてのスキル習得と実践
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ～コトバと感性の贈り物～</p> <p>第2回 ショート・レポート</p> <p>第3回 ノンバーバルコミュニケーション (1) 身ぶり (ボディランゲージ)</p> <p>第4回 ノンバーバルコミュニケーション (2) 感情を込める (パラランゲージ)</p> <p>第5回 ビブリオ・プレゼン (1) ルール説明</p> <p>第6回 ビブリオ・プレゼン (2) チャレンジ</p> <p>第7回 ビブリオ・プレゼン (3) リベンジ</p> <p>第8回 ビブリオ・プレゼン (4) ※5時間目 図書館主催「ビブリオ・バトル」参加</p> <p>第9回 取材とプレゼン</p> <p>第10回 「キリ学/キリ短らしさ」レポートとプレゼン</p> <p>第11回 「Happy Campus Guide」プロジェクト (1) 担当分担</p> <p>第12回 「Happy Campus Guide」プロジェクト (2) 取材計画</p> <p>第13回 「Happy Campus Guide」プロジェクト (3) 構成</p> <p>第14回 「Happy Campus Guide」プロジェクト (4) プレゼン</p> <p>第15回 「Happy Campus Guide」プロジェクト (5) 個人報告・レポート提出</p>
授業の概要	自己認識と他者理解という、対話的思考を基軸としたプレゼンテーションについて学ぶ。徹底した実践を通して、スキルを習得し、プレゼンについての認識を深める。
予習	シラバスを確認して、講義内容の知識を整えておくこと
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	講義担当者が講義にて資料配付
参考書	講義担当者が講義にて紹介
評価方法・評価基準	プレゼンテーション課題・実践。授業態度
履修上の注意	—

講義科目名称：情報機器利用プレゼンテーション演習

授業コード：

英文科目名称：IT Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	情報機器を活用して効果的なプレゼンテーションができるようになる 聞き手に伝わるプレゼンテーションについての理解が深まる
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、自己紹介のスピーチ</p> <p>第2回 プレゼンテーションの基礎知識、他己紹介</p> <p>第3回 PowerPointの基本1</p> <p>第4回 PowerPointの基本2</p> <p>第5回 PowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成1</p> <p>第6回 PowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成2</p> <p>第7回 プレゼンテーションの実践1</p> <p>第8回 プレゼンテーションの実践2</p> <p>第9回 様々なITスキルを活用したプレゼンテーション1</p> <p>第10回 様々なITスキルを活用したプレゼンテーション2</p> <p>第11回 チームによるプレゼンテーション資料の作成1</p> <p>第12回 チームによるプレゼンテーション資料の作成2</p> <p>第13回 チームによるプレゼンテーション資料の作成3</p> <p>第14回 チームによるプレゼンテーションの実践</p> <p>第15回 チームによるプレゼンテーションの実践</p>
授業の概要	効果的なプレゼンテーションとは何かを学び、それをサポートするための情報機器やアプリケーションの活用方法を習得する。
予習	シラバスに従って、準備を整えておくこと。
復習	授業で学んだことをその後の実践に活かすこと。
テキスト	適宜プリント教材を配布する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	個人のプレゼンテーション 50% チームによるプレゼンテーション 50%
履修上の注意	各自USBメモリを準備すること。

講義科目名称：マーケティング入門

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Marketing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
未定			

授業のテーマ及び到達目標	基本的な目標： マーケティングを学問として捉え、用語や理論を理解する。 高度な目標： マーケティング思考力を身につけ、生活の中の様々な事柄に応用できるようになる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクション、マーケティングって何だろう</p> <p>第2回 売れる商品・サービスとはどんなものなのか？「ニーズとウォンツ」</p> <p>第3回 なぜその商品・サービスが選ばれるのか？「ライフスタイル」</p> <p>第4回 ・いつ、どこでモノは買われているのか？「購買行動」・買う・買わないはどうやって決めているのか？「購買意思決定プロセス」</p> <p>第5回 どんな広告戦略を立て、誰に売ればいいのか？「イノベータ理論」</p> <p>第6回 ・優良顧客を見極め、手放さないためには？「ライフタイムバリュー」・売れ筋・死に筋の境界線とは？「20-80の法則」</p> <p>第7回 ・収益性を上げるにはどうしたらいいのか？「ファイブ・フォース・モデル」・変化・チャンス・ピンチを見逃さない方法はあるか？「SWOT分析」</p> <p>第8回 ・自社の製品はどんな人に買ってもらうべきか？「セグメンテーション」・どんなグループを自社の顧客にすればいいのか？「ターゲティング」</p> <p>第9回 生活者と企業をつなぐ基本要素とは？ 「マーケティング・ミックス」</p> <p>第10回 ・見ただけで伝えなければならないことは何か？ 「ロゴ・マーク」・もっと価値ある商品にするにはどうしたらいいのか？ 「ブランド」・売れる名前をつけるにはどうしたらいいのか？ 「ネーミング」 まとめ、レポート提出</p> <p>第11回 ・市場の変化に対応できる新商品開発タイミングとは？ 「プロダクト・ライフサイクル」・問題児？花形？金のなる木？負け犬？ 「プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント」</p> <p>第12回 ・価格ってどうやって決める？ 「価格設定戦略」・どっちの価格戦略で行こうか？ 「スキミングとペネトレーション」</p> <p>第13回 ・最終販売経路はどこにあるのか？ 「チャンネル戦略」・効率のいい販売促進とは？ 「プロモーション戦略」</p> <p>第14回 どうすれば再購入につながるのか？ 「CS（顧客満足）」</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	まずはじめにマーケティングの全体像を把握し、続いて企業を取り巻く環境・市場のとらえ方を把握し、商品づくりから顧客に届くまでのチャンネルや販売促進方法について学ぶ。こうした流れが身近に理解できるよう企業の実例の事例を紹介し、ディスカッションする。
予習	シラバスを確認し、ニュース等と関連づけて意識しておくこと。
復習	学んだテーマの理解を深め、修得した内容を日常生活で意識すること。
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	・授業への参加度、貢献度、受講態度 30% ・課題等の提出 70%
履修上の注意	身の回りにあるほとんどのものがマーケティングを考える良い材料になります。日頃からマーケティングというものを意識するようにつとめましょう。

講義科目名称：英語学概論 I

授業コード：

英文科目名称：Intro. to the English Language I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
新垣 友子			

授業のテーマ及び到達目標	英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。		
授業計画	第1回	イントロダクション&ことばの起源と語族 ことばの起源、語族とは	
	第2回	人間のことばと言語研究 人間のことばの特徴、言語研究の対象・分野・方法、言語資料の収集	
	第3回	英語の発音とスペリング oneはオネ、オン、ワン？、英語の文字の起源、ローマン・アルファベットと正書法、英語の音の移り変わり	
	第4回	英語の語彙と多様性 英語の語彙とその豊富さ、英語語彙の歴史的発展	
	第5回	標準英語の成立 標準英語の変遷、アメリカ英語の標準語、世界の英語	
	第6回	英語のバリエーション バリエーションとは何か、イギリス英語の地域変種、アメリカ英語の特徴、世界の英語圏	
	第7回	ことばの変化 変化の切り口、言語の違い、英語の歴史的変化、変化の要因と変化の速度	
	第8回	ことばと音声 発音器官、言語音を分類する	
	第9回	音の組合せとアクセント 音素とは？音の変化、音節とは？アクセントとリズム	
	第10回	単語ができる仕組み 単語の恣意性、形態論と形態素、形態素から単語へ	
	第11回	文ができる仕組み 単語から文へ、文法研究の歴史、統語構造	
	第12回	ことばの意味とはなんだろう 意味論の研究対象としての意味、指示説、構造意味論、概念説	
	第13回	語の間の意味関係 いろいろな意味関係（同義性、反義性、上下関係）、フレーム意味論	
	第14回	意味の拡張 メタファー、メトニミー	
	第15回	ことばの意味に見られる主観性	
	第16回	期末試験	
授業の概要	英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分の特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、問題を解くことで理解の確認を図る。		
予習	決められた章を読んでノートをとる。（テストはノートのみ持ち込み可。コピー不可。）		
復習	授業で配付するプリントの問題の復習		
テキスト	長谷川瑞穂（編）『はじめての英語学(改訂版)』研究社（2006）		
参考書	なし		
評価方法・評価基準	授業態度や授業への参加度(10%)、期末テストの結果(90%)を総合的に判断する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や課題は義務であり、必ず済ませて授業に参加すること。 ・テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。 		

講義科目名称：異文化理解

授業コード：

英文科目名称：Cross-cultural Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：文化的他者の概念を説明できる。 関心意欲：他者の歴史に興味を持てる。 思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。 態度：他者の声を聴く態度を持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 「文化」とは？「異文化理解」とは？</p> <p>第2回 大航海時代と異民族・異文化接触</p> <p>第3回 アメリカ合衆国の歴史と奴隷制度</p> <p>第4回 奴隷解放とブルースの誕生</p> <p>第5回 北部都市シカゴとR&B</p> <p>第6回 貿易港ニューオリンズとジャズ</p> <p>第7回 ブルースからロックへ</p> <p>第8回 抵抗の音楽～レゲエ</p> <p>第9回 現代アメリカの社会問題とヒップ・ホップ</p> <p>第10回 レイズムと音楽</p> <p>第11回 沖縄の音楽と文化</p> <p>第12回 歴史・社会・文化</p> <p>第13回 比較文化論</p> <p>第14回 日米における教育と文化の関連性について</p> <p>第15回 「文化」の概念再考</p> <p>第16回 総括</p>
授業の概要	<p>新たな世紀が明けると同時に私たちが目にしたものは、異民族・異文化の衝突であり、耐えることのない紛争である。グローバル化の進展は、更なる人々の出会いを生み、異文化の出会いを生んでいく。様々な文化や価値観との出会いのなかで、文化的他者を理解し、共に生きるとはいかなることなのか。様々な文化が生成していくプロセスのなかに込められた人々の声を聞き、その思いを探る。</p> <p>「文化」を理解するカギとして、この講義では特にアメリカ黒人音楽の歴史を例に、文化にまつわる諸テーマを考える。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。</p>
予習	<p>次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史、事実関連を調べること。</p>
復習	<p>次回の内容との関連性を考え、概念などの再確認をおこなうこと。</p>
テキスト	<p>教材は、そのたびに講義担当者が準備する。</p>
参考書	<p>講義についてそのつど提示する。</p>
評価方法・評価基準	<p>レポートやエッセイを課す。講義でのワークショップなどへの積極的参加が最も重視される。</p>
履修上の注意	<p>特になし</p>

講義科目名称：日本語表現法

授業コード：

英文科目名称：Japanese Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：コミュニケーション・効果的なプレゼンについて深く認識する 思考判断：スピーチの論理的な構成を通じて、相手を尊重すること、自分を省みることを学ぶ 関心意欲：失敗から学ぶ姿勢で積極的にスピーチ・プレゼンに取り組む意欲を喚起する 態度：相互交流での学び合いによるセルフ・ラーニングの意識を培う</p>
授業計画	<p>第1回 「コミュニケーション」って何？ 課題：他己紹介、ヒーローインタビュー</p> <p>第2回 「聞く・聴く・訊く」 課題：聴く力の点検、音を読む</p> <p>第3回 「話す～声のパワー～」</p> <p>第4回 「敬語意識（1）」</p> <p>第5回 「敬語意識（2）」</p> <p>第6回 「パブリックスピーキング～伝達・情報化～」</p> <p>第7回 「パブリックスピーキング実践（1）」 課題：自分の披露宴の友人代表スピーチ</p> <p>第8回 「パブリックスピーキング実践（2）」 課題：フィードバック</p> <p>第9回 「聴衆分析」 課題：即興スピーチ</p> <p>第10回 「朗読～相手に届ける表現～」</p> <p>第11回 「教室プレゼンテーション・20の技法」</p> <p>第12回 「プレゼン実践（1）」 課題：写真リポート</p> <p>第13回 「プレゼン実践（2）」 課題：フィードバック</p> <p>第14回 まとめ、プレゼン、即興スピーチ</p> <p>第15回 フィードバック・レポート提出</p>
授業の概要	<p>日本語の音声表現についての講義と実践を通し、的確なコミュニケーションのための土台作りをする。以下の5つの観点からの学びを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の考えや意見を音声言語で表現する方法を訓練する。 ② 他人の話を聞く訓練をする。 ③ コミュニケーションのしぐみを学ぶ。 ④ 1分スピーチ力を養成する。 ⑤ 効果的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。
予習	シラバスを確認し、授業部分のテキストを読んでおくこと
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	講師作成資料を配布。
参考書	テーマ毎に指示する。
評価方法・評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業への参加態度 ② 1分スピーチへの取り組み ③ プレゼンテーションへの取り組み ④ スピーチ原稿作成、プレゼン、即興スピーチ（1分、250-260字程度） ⑤ 最終レポート提出
履修上の注意	講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと。

講義科目名称：Tourism English I

授業コード：

英文科目名称：Tourism English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-4)	選択必修A
担当教員			
Michelle Higaonna			

授業のテーマ及び到達目標	This course is designed to build confidence in professional skills such as dealing with enquiries, marketing destinations, offering advice, negotiating, writing business correspondence, and speaking to a group. Language skills will be practiced using realistic case studies.		
授業計画	第1回	Class Orientation+Unit1	
	第2回	Unit 1 Careers in Tourism	
	第3回	Unit 1 Careers in Tourism	
	第4回	Unit 1 Careers in Tourism	
	第5回	Unit 2 Destinations	
	第6回	Prepare for Presentation 1	
	第7回	Prepare for Presentation 1	
	第8回	Presentation 1	
	第9回	Presentation 1	
	第10回	Unit 2 Destinations	
	第11回	Unit 3 Hotel Facilities	
	第12回	Unit 3 Hotel Facilities	
	第13回	Unit 3 Hotel Facilities	
	第14回	Prepare for Presentation 2	
	第15回	Prepare for Presentation 1	
	第16回	Presentation 2	
	第17回	Unit 4 Tour Operators	
	第18回	Unit 4 Tour Operators	
	第19回	Unit 4 Tour Operators	
	第20回	Unit 5 Dealing with guests	
	第21回	Unit 5 Dealing with guests	
	第22回	Unit 5 Dealing with guests	
	第23回	Consolidation	
	第24回	Unit 6 Travel Agencies	

	<p>第25回 Unit 6 Travel Agencies</p> <p>第26回 Unit 6 Travel Agencies</p> <p>第27回 Prepare for Final Presentations</p> <p>第28回 Prepare for Final Presentations</p> <p>第29回 Final Presentations</p> <p>第30回 Final Presentations</p>
授業の概要	<p>To enable students to develop their listening and speaking skills</p> <p>To improve the ability of students to communicate in English in situations specific to the tourism industry: in airports, hotels and restaurants, making reservations and describing a variety of travel services</p> <p>To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English</p>
予習	Students should preview each lessons' s material before the next class.
復習	Students should review each lessons' s material before the next class.
テキスト	English for International Tourism - Intermediate Student' s Book
参考書	It is good to keep a special notebook for this class.
評価方法・評価基準	<p>Classroom participation, Oral presentations, Listening tests, Short tests (quizzes), End-of-Semester Presentation, Other methods as determined by the instructors.</p> <p>Attendance and participation: 30%, 2 presentations: 20% each (40%), Final Presentation: 30%.</p> <p>授業参加度：30%、2プレゼンテーション：各20%= (40%) ,</p> <p>最終プレゼンテーション：30%.</p> <p>Grades: 成績評価基準</p> <p>(A)= 90-100 (B)= 80-89 (C)= 70-79 (D) 60-69 (F)=0-59</p> <p>*If you are absent on your assigned presentation day 10% per class will be subtracted from your presentation score.</p>
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.

講義科目名称：Tourism English II

授業コード：

英文科目名称：Tourism English II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-4)	選択必修A
担当教員			
Michelle Higaonna			

授業のテーマ及び到達目標	This course is designed to build confidence in professional skills such as dealing with enquiries, marketing destinations, offering advice, negotiating, writing business correspondence, and speaking to a group. Language skills will be practiced using realistic case studies.		
授業計画	第1回	Class Orientation+Unit7	
	第2回	Unit 7 Hotel Reservations	
	第3回	Unit 7 Hotel Reservations	
	第4回	Unit 7 Hotel Reservations	
	第5回	Prepare for Presentation 1	
	第6回	Prepare for Presentation 1	
	第7回	Presentation 1	
	第8回	Presentation 1	
	第9回	Unit 8 Seeing the Sights	
	第10回	Unit 8 Seeing the Sights	
	第11回	Unit 8 Seeing the Sights	
	第12回	Consolidation	
	第13回	Unit 9 Getting Around Transportation	
	第14回	Unit 9 Getting Around Transportation	
	第15回	Unit 9 Getting Around Transportation	
	第16回	Prepare for Presentation 2	
	第17回	Prepare for Presentation 2	
	第18回	Presentation 2	
	第19回	Presentation 2	
	第20回	Unit 10 Eating Out - Restaurants	
	第21回	Unit 10 Eating Out - Restaurants	
	第22回	Unit 10 Eating Out - Restaurants	
	第23回	Unit 11 Traditions	
	第24回	Unit 11 Traditions	

	第25回 Unit 12 Special Interest Tours 第26回 Unit 12 Special Interest Tours 第27回 Unit 12 Special Interest Tours 第28回 Prepare for Final Presentations 第29回 Prepare for Final Presentations 第30回 Final Presentations
授業の概要	To enable students to develop their listening and speaking skills To improve the ability of students to communicate in English in situations specific to the tourism industry: in airports, hotels and restaurants, making reservations and describing a variety of travel services To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English
予習	Students should preview each lessons' s material before the next class.
復習	Students should review each lessons' s material before the next class.
テキスト	① English for International Tourism - Intermediate Student' s Book
参考書	特になし
評価方法・評価基準	Classroom participation, Oral presentations, Listening tests, Short tests (quizzes), End-of-Semester Presentation, Other methods as determined by the instructors. Attendance and participation: 30%, 2 presentations: 20% each (40%), Final Presentation: 30%. 授業参加度: 30%、2プレゼンテーション: 各20%= (40%) , 最終プレゼンテーション: 30%. Grades: 成績評価基準 (A)= 90-100 (B)= 80-89 (C)= 70-79 (D) 60-69 (F)=0-59 *If you are absent on your assigned presentation day 10% per class will be subtracted from your presentation score.
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.

講義科目名称：英語講読Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-4)	選択必修C
担当教員			
呉屋 英樹			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Summarize, organize, present, and discuss own view to the issues in verbally and visually compelling ways. Employ critical thinking in evaluation, speculation, analysis, and synthesis required to evolve and complete a reading project.
授業計画	<p>Class 1 Intro to Reading 3</p> <p>Class 2 Class Orientation (Syllabus)</p> <p>Class 3 Class-taking Guidance</p> <p>Class 4/5 Unit 1: The Cost of Cool</p> <p>Class 6/7 Unit 2: As Biofuel Demand Grows, SO Do Guatemala' s Hunger Pangs</p> <p>Class 8/9 Unit 3: As China Ages, Beijing Turns to Morality Tales</p> <p>Class 10/11 Unit 4: Swedish School' s Big Lesson begins With Dropping Personal Pronouns</p> <p>Class 12/13 Unit 5: Making a Child, Minus the Couple</p> <p>Class 14/15 Unit 6: An Ugly Toll of Technology: Impatience and Forgetfulness</p> <p>Class 16 Review for Mid-term Exam</p> <p>Class 17 Mid-term Exam</p> <p>Class 18/19 Unit 7: sry got bail mayb nxt tme</p> <p>Class 20/21 Unit 8: In High-Tech Japan, the Fax Machines Roll on</p> <p>Class 22/23 Unit 9: Firm Brings Gene Tests to Masses</p> <p>Class 24/25 Unit 10: Ho Long DO You Want to Live?</p> <p>Class 26/27 Unit 11: More Men Enter Fields Dominated by Women</p> <p>Class 28/29 Unit 12: Chinese Graduates Say No Thanks to Factory Jobs</p> <p>Class 30 Review for Final Exam</p> <p>Class 31 Final Exam</p>
授業の概要	This course provides students with an opportunity to improve overall reading skills in a semi-student centered learning environment. The various topics from a textbook, Change and Conflict: Seeing the World through New York Times Articles (Kita & Adams, 2013), will be covered in

	<p>class. Specifically, students will read about issues in environment, society, technology, humanity, and education. A teaching method applied in this class is called Active Learning. Specific techniques are learning through discussion, jigsaw activity, class discussion, etc. Such deep engagement will allow students to heavily interact each other based on spontaneous feedbacks receiving from the instructor and peers.</p> <p>There are two exams: one is held in the middle of the semester and the other is held at the end of the course.</p>
予習	<p>各エッセイは各自で本コースのウェブサイトよりダウンロードし、予習しておくこと。特に知らなかった語彙や慣用表現を本コースのウェブサイトに提出する。</p>
復習	<p>本コースのウェブサイトにも各レッスンで取り扱った内容に関する自らの意見を英文パラグラフでまとめ提出する。</p>
テキスト	<p>Rume Kita & Keith Wesley Adams. (2013). Change and Conflict: Seeing the World through New York Times Articles. Eihosha (英宝社)</p>
参考書	<p>.</p>
評価方法・評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. Achievement sheet (10%): Students will be required to keep record of their achievement and reflection at each session. At the end of the course, the achievement sheet will be collected. 2. Reading Reflection (20%): Through Coursebase, students post their opinion towards a provided question as reading reflection. 3. Review Quiz (20%): Students have a vocabulary quiz at every class. The vocabulary tested will be from the previous lesson. 4. Exams (50%): Students will have two exams; Mid-term and Final.
履修上の注意	<p>Coursebase上での宿題を期限内に提出して下さい。本コースでは教材の配布や、宿題等の提出物、講義関連のお知らせをCoursebaseを通じて行います。最初の講義で、各自の責任において必ず登録コードを受け取ってください。</p>

講義科目名称：英語講読IV

授業コード：

英文科目名称：English Reading IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-4)	選択必修C
担当教員			
作田 真由子			

授業のテーマ及び到達目標	パラグラフごとに大意をつかみ、長文であっても内容を把握できる。読解を通して語彙力、文法力も強化する。		
授業計画	第1回	イントロダクション Chapter 1 Japan PM' s support rate plummets after defense bills pass lower house	
	第2回	Chapter 1 Japan PM' s support rate plummets after defense bills pass lower house	
	第3回	Chapter 2 Japan puts focus on growth to repair finances, analysts skeptical	
	第4回	Chapter 2 Japan puts focus on growth to repair finances, analysts skeptical	
	第5回	Chapter 3 World Bank sees slower global growth, urges Fed to wait on Rates	
	第6回	Chapter 3 World Bank sees slower global growth, urges Fed to wait on Rates	
	第7回	Chapter 4 G7 leaders urge tough line on Russia at Alpine summit	
	第8回	Chapter 4 G7 leaders urge tough line on Russia at Alpine summit	
	第9回	Chapter 5 Japan security council approves bid to build Australian submarines	
	第10回	Chapter 5 Japan security council approves bid to build Australian submarines	
	第11回	Chapter 6 Cameron sweeps to unexpected triumph in British election	
	第12回	Chapter 6 Cameron sweeps to unexpected triumph in British election	
	第13回	Chapter 7 Japan' s food diversity key theme at Milan expo	
	第14回	Chapter 7 Japan' s food diversity key theme at Milan expo	
	第15回	Chapter 8 Huge show of solidarity in Paris against terrorism	
	第16回	Chapter 8 Huge show of solidarity in Paris against terrorism	
	第17回	Chapter 9 Ministry to outlaw maternity discrimination	
	第18回	Chapter 9 Ministry to outlaw maternity discrimination	
	第19回	Chapter 10 Global carbon dioxide levels just broke another record	
	第20回	Chapter 10 Global carbon dioxide levels just broke another record	
	第21回	Chapter 11 India suffers world' s 5th-deadliest heat wave	
	第22回	Chapter 11 India suffers world' s 5th-deadliest heat wave	
	第23回	Chapter 12 Seniors grow to 26 % of population as Japan shrinks for fourth year straight	
	第24回	Chapter 12 Seniors grow to 26 % of population as Japan shrinks for fourth year straight	

	第25回	Chapter 13 Japan messaging app Line launches music streaming business
	第26回	Chapter 13 Japan messaging app Line launches music streaming business
	第27回	Chapter 14 FIFA to suspend bidding for 2026 World Cup amid corruption scandal
	第28回	Chapter 14 FIFA to suspend bidding for 2026 World Cup amid corruption scandal
	第29回	Chapter 15 Kawabuchi draws on J.League success to push for Japan basketball's transformation
	第30回	Chapter 15 Kawabuchi draws on J.League success to push for Japan basketball's transformation
	第31回	定期試験
授業の概要	英語講読Ⅲで培った読解力をさらに高めるため、さらに上級のレベルの英語で書かれたテキストを使用する。テキストに出てくる語句のテストをしたり、それらの語句を使って作文を書いたりする。テキストの内容に関連した副教材を使用することもある。	
予習	語彙を調べて、訳してみる。	
復習	語彙を覚える。関連する文法項目を文法書でもう一度確認する。	
テキスト	堀江 洋文 他(著) English for Mass communication-2016 Edition (『時事英語の総合演習—2016年度版一』、朝日出版社、2016年)	
参考書	総合英語フォレスト (第7版)	
評価方法・評価基準	定期試験60%、課題や小テスト40%	
履修上の注意	辞書と英文法参考書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。	

講義科目名称：TOEIC I

授業コード：

英文科目名称：TOEIC I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
仲座 栄利子			

授業のテーマ及び到達目標	コミュニケーション能力：英語を聞き、話の要旨を理解することができる。また目的や意図を簡単な英語で伝えることができる。
授業計画	<p>第1回 TOEIC について／Pre-Check</p> <p>第2回 Listening Comprehension Part 1</p> <p>第3回 Listening Comprehension Part 2</p> <p>第4回 Listening Comprehension Part 3</p> <p>第5回 Listening Comprehension Review Part 1</p> <p>第6回 Listening Comprehension Review Part 2</p> <p>第7回 Listening Comprehension Review Part 3</p> <p>第8回 Mid-Term Exam</p> <p>第9回 Reading Comprehension Part 4</p> <p>第10回 Reading Comprehension Part 4</p> <p>第11回 Reading Comprehension Part 4</p> <p>第12回 Reading Comprehension Part 5</p> <p>第13回 Reading Comprehension Part 5</p> <p>第14回 Reading Comprehension Part 5</p> <p>第15回 Review Reading Comprehension Part 4 and 5</p> <p>第16回 Final Exam</p>
授業の概要	<p>英語はコミュニケーションの道具です。私たちはコミュニケーションによって色々な国々の文化や価値観を理解していくことができます。TOEICは”Test of English for International Communication “の略称で、英語コミュニケーション能力を測るテストです。現在、世界60カ国で実施されています。以前は主に海外企業・外資系企業で入社・昇格等の目的に利用されてきましたが、今では米国大学入試・国内大学入試等にも利用されています。ListeningとReadingの2部に分かれています。</p> <p>Introductory Courseでは、TOEIC Bridgeを使うTOEIC入門クラスです。入門コースなので自信のない方や苦手な方でも受講できます。分かりやすく各設問を説明し、対策法・傾向を学びます。なお、TOEICのスコアアップは本演習だけでは不十分なので、毎回英単語・熟語の小テストを行います。また毎回速読の課題をこなしてもらいます。</p>
予習	毎回の小テストの予習をすること
復習	各パートの復習をすること
テキスト	国際ビジネスコミュニケーション協会 「TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集」
参考書	英検PASS単熟語準2級
評価方法・評価基準	小テスト10% 授業への参加度20% 学期末テスト40% 宿題30%
履修上の注意	英検準2級を目指すものが望ましい。

講義科目名称：TOEIC II

授業コード：

英文科目名称：TOEIC II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
新城 知子・作田 真由子			

授業のテーマ及び到達目標	TOEICのテスト形式に慣れ、各パートの効果的な解答方法を習得すること。また、実践的な演習を通じて速解力を高めてゆくこと。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN Pre-test</p> <p>第2回 予定一動詞・5文型</p> <p>第3回 予定一動詞・5文型</p> <p>第4回 数量を尋ねる一名詞</p> <p>第5回 数量を尋ねる一名詞</p> <p>第6回 命令・依頼一形容詞・副詞</p> <p>第7回 広告・宣伝一フレーズリーディング</p> <p>第8回 時間を尋ねる一動名詞</p> <p>第9回 場所を尋ねる一to不定詞</p> <p>第10回 確認一分詞</p> <p>第11回 留守電一スキヤニング</p> <p>第12回 アドバイス一受動態</p> <p>第13回 誘い一比較</p> <p>第14回 申し出一関係詞</p> <p>第15回 講演者紹介一スキミング</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	英語はコミュニケーションの道具です。私たちはコミュニケーションによっていろいろな国々の文化や価値観を理解していくことができます。TOEICは“Test of English for International Communication”の略称で、英語コミュニケーション能力を測るテストです。現在、世界60カ国で実施されています。以前は主に海外企業・外資系企業で入社・昇格等の目的に利用されてきましたが、今では米国大学入試・国内大学入試等にも利用されています。ListeningとReadingの2部に分かれています。Intermediate Courseは、TOEICスコア400から650を対象としたクラスです。英検2級以上の単語力が求められ、リスニング理解力、速読読解力のアップを目指します。また予想問題もIntroductory Courseより多く取り込み、本番のテストで力を100%発揮できるよう、自信をつけていきます。
予習	テキストの問題を解く。その他、できるだけたくさん問題を解くよう心がける。
復習	授業で学習した箇所を見直し、単語、文法などの定着に努める。
テキスト	*THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470* CENGAGE Learning, 2015
参考書	英検PASS単熟語2級
評価方法・評価基準	宿題30% 授業への参加度20% 学期末テスト40% 小テスト10%
履修上の注意	英検準2級を既に取得しているか、もしくは英検準2級同等の英語力を持つ者が望ましい。

講義科目名称：TOEIC Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：TOEIC Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
作田 真由子			

授業のテーマ及び到達目標	Students must have either TOEFL 450 or TOEIC 500 or STEP 2nd Grade or have equivalent English skills to one of these tests.
授業計画	<p>第1回 Introduction/ Mini Test</p> <p>第2回 Listening Comprehension Part 1</p> <p>第3回 Listening Comprehension Part 2</p> <p>第4回 Listening Comprehension Part 3</p> <p>第5回 Listening Comprehension Part 4</p> <p>第6回 Listening Comprehension Review Part 1 & 2</p> <p>第7回 Listening Comprehension Review Part 3 & 4</p> <p>第8回 Mid-term Exam</p> <p>第9回 Reading Comprehension Part 5</p> <p>第10回 Reading Comprehension Part 5</p> <p>第11回 Reading Comprehension Part 6</p> <p>第12回 Reading Comprehension Part 6</p> <p>第13回 Reading Comprehension Part 7</p> <p>第14回 Reading Comprehension Part 7</p> <p>第15回 Review/ Introducing new Listening and Reading Strategies</p> <p>第16回 Final Exam</p>
授業の概要	Advanced TOEIC course aims for score 650 or above. You will be memorizing many high level English vocabulary words and expressions which are equivalent to STEP pre-1st level. Strategic listening and reading comprehension skills will be presented and you will be tested these skills by taking Mid-term and Final Exams.
予習	Students must get ready for their weely quizzes.
復習	Students are required to review the strategies that they leanred in the class.
テキスト	国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEICテスト 公式問題集 新形式問題対応編
参考書	英検PASS単熟語準1級
評価方法・評価基準	小テスト10% 宿題30% 授業への参加度20% 学期末テスト40%
履修上の注意	Students must have either STEP 2nd grade or have equivalent English skills to STEP 2nd grade.

講義科目名称：通訳とプレゼンテーション

授業コード：

英文科目名称：Interpretation and Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	逐次通訳とは何かを理解し、日本語⇄英語の逐次通訳に必要なプレゼンテーションの力を習得する。		
授業計画	第1回	通訳とは：通訳と翻訳の違い、同時通訳と逐次通訳との違い	
	第2回	スピーチの実践・・・効果的なスピーチに必要なのは？	
	第3回	スピーチの実践・・・効果的なスピーチに挑戦	
	第4回	リテンション・・・短文を再生する練習	
	第5回	リテンション・・・短文を再生する練習	
	第6回	リプロダクション・・・全体の内容をまとめる練習	
	第7回	リプロダクション・・・全体の内容をまとめる練習	
	第8回	発音・イントネーションを磨く	
	第9回	発音・イントネーションを磨く	
	第10回	通訳のためのメモとは	
	第11回	通訳のためのメモ取り実践1	
	第12回	通訳のためのメモ取り実践2	
	第13回	逐次通訳の総合実践1	
	第14回	逐次通訳の総合実践2	
	第15回	逐次通訳の総合実践3	
授業の概要	「通訳」には大きく分けて同時通訳と逐次通訳がありますが、この授業では逐次通訳に必要なプレゼンテーションの能力を向上させるために様々な演習をします。スピーチをする人のメッセージの内容はもちろんのこと、心に届く気持ちまでも失わずに聴衆に伝えるにはどうすればよいのか。スピーチの実践練習や種々の技能の訓練に加えて、「共感力」や「信頼」といった高度なコンセプトも学んでいただきます。人と人との通じ合う喜びをサポートする意義深さも感じてください。		
予習	事前に配布する資料を用いて準備		
復習	授業で学んだ内容の応用に努める		
テキスト	講師作成資料を配布します。		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	クラス内での課題への取り組みとパフォーマンス 100%		
履修上の注意	毎回持参するもの：英和辞書、和英辞書、ノート、筆記用具		

講義科目名称：同時通訳初級（夏期集中講座）

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation, Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
夏期集中	1～2年	2単位(1-2)	選択必修D
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	英語ニュースのシャドウイングや、ショート・スピーチの同時通訳が出来ることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について</p> <p>第2回 シャドウイング</p> <p>第3回 語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第4回 サイト・トランスレーション</p> <p>第5回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳</p> <p>第6回 日・英両語の新聞記事読解</p> <p>第7回 日・英両語のニュース同時通訳</p> <p>第8回 日・英両語の翻訳</p> <p>第9回 日・英両語のショートスピーチ</p> <p>第10回 メモ取り</p> <p>第11回 逐次通訳（1）</p> <p>第12回 逐次通訳（2）</p> <p>第13回 トータル・パフォーマンス（1）</p> <p>第14回 トータル・パフォーマンス（2）</p> <p>第15回 同時通訳専用ブースでの同時通訳実演（1）</p> <p>第16回 同時通訳専用ブースでの同時通訳実演（2）</p>
授業の概要	<p>目安として、英検2級程度の英語力を有する方を対象とする。</p> <p>初歩レベルの同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音素材を用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳出の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー（特に逐次通訳）を含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学びます。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話（司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等）を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験する。また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。</p>
予習	配布された資料を研究しておく
復習	修得した内容・技術の応用
テキスト	各種メディアの音声素材、原稿など
参考書	特になし
評価方法・評価基準	演習中のパフォーマンス（講義の理解度、実際のパフォーマンス）50% 同時通訳実践50%
履修上の注意	USBメモリを持参してください。

講義科目名称：同時通訳上級（夏期集中講座）

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation, Advanced

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
夏期集中	1～2年	2単位(1-2)	選択必修D
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	ニュース、講演、スピーチを英語⇄日本語で同時通訳が出来るようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について</p> <p>第2回 通訳理論と背景知識</p> <p>第3回 シャドウイング</p> <p>第4回 語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第5回 サイト・トランスレーション</p> <p>第6回 日本語→英語。原稿を用いた同時通訳</p> <p>第7回 英語→日本語。原稿を用いた同時通訳</p> <p>第8回 日本語→英語。新聞記事の訳</p> <p>第9回 英語→日本語。新聞記事の訳</p> <p>第10回 日本語→英語。ニュース同時通訳</p> <p>第11回 英語→日本語。ニュース同時通訳</p> <p>第12回 メモ取り</p> <p>第13回 逐次通訳</p> <p>第14回 法廷通訳</p> <p>第15回 トータル・パフォーマンス</p> <p>第16回 同時通訳専用ブースでの同時通訳実演</p>
授業の概要	<p>英検準1級程度の英語力を有する者を対象とする。</p> <p>学内外で行われる会議、講演等で同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音素材を用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳出の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー（特に逐次通訳）を含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学ぶ。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話（司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等）を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験させる。また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。</p>
予習	配布された資料を研究しておく
復習	修得した内容・技術の応用
テキスト	各種メディアの音声素材、原稿など
参考書	特になし
評価方法・評価基準	演習中のパフォーマンス（講義の理解度、実際のパフォーマンス）50% 同時通訳実践50%
履修上の注意	USBメモリを持参してください。

講義科目名称 : Oral English I

授業コード :

英文科目名称 : Oral English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	4単位(0-8)	選択必修A
担当教員			
Fogel/Latham			

授業のテーマ及び到達目標	This is one of the beginning classes of college English. The goal of this class is to have students become used to learning English in a college setting with native English speaking teachers or teachers with a strong English background. This level is equivalent to TOEIC 250.
授業計画	<p>第1回 Class Orientation+Unit 1 Class Orientation+Lesson 1</p> <p>第2回 Unit 1 Lesson 1</p> <p>第3回 Unit 1 Lesson 1</p> <p>第4回 Unit 2 Dialogue quiz</p> <p>第5回 Unit 2 Lesson 2</p> <p>第6回 Unit 3 Lesson 2</p> <p>第7回 Dialogue quiz Dialogue quiz</p> <p>第8回 Unit 4 Lesson 3</p> <p>第9回 Unit 4 Lesson 3</p> <p>第10回 Unit 5 Dialogue quiz</p> <p>第11回 Dialogue quiz Lesson 4</p> <p>第12回 Unit 6 Lesson 4</p> <p>第13回 Unit 6 Lesson 5</p> <p>第14回 Review all the units Lesson 6</p> <p>第15回 Final test preparation</p> <p>第16回 Final Exam</p>
授業の概要	To help students understand spoken English To help students speak using basic English To prepare students for higher levels of speaking and listening in English
予習	Pre read and check any uncertain voc. words in the unit.
復習	Review new voc. words and expressions you learned in the class.
テキスト	① American English File 1 ② Impact Issues 1
参考書	None
評価方法・評価基準	Classroom participation (20%) Oral presentations (20%) Listening tests (10%) Short tests (quizzes) (10%) End-of-Semester test (40%) Other methods as determined by the instructors
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.

講義科目名称 : Oral English II

授業コード :

英文科目名称 : Oral English II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	4単位(0-8)	選択必修A
担当教員			
Osterman/Bradley・Fogel/Latham			

授業のテーマ及び到達目標	This is one of the beginning classes of college English. The goal of this class is to have students become used to learning English in a college setting with native English speaking teachers or teachers with a strong English background. This level is equivalent to TOEIC 300.		
授業計画	第1回 Class Orientation+Unit 1 Class Orientation+Lesson 1 第2回 Unit 1 Lesson 1 第3回 Unit 1 Lesson 1 第4回 Unit 2 Lesson 2 第5回 Unit 2 Dialogue quiz 第6回 Unit 3 Lesson 3 第7回 Dialogue quiz Lesson 3 第8回 Unit 4 Dialogue quiz 第9回 Unit 4 Lesson 4 第10回 Unit 5 Lesson 4 第11回 Dialogue quiz Dialogue quiz 第12回 Unit 6 Lesson 5 第13回 Unit 6 Lesson 5 第14回 Review all the units Lesson 6 第15回 Final test preparation 第16回 Final Exam		
授業の概要	To help students understand spoken English To help students speak using basic English To prepare students for higher levels of speaking and listening in English		
予習	Pre read and check any uncertain voc. words in the unit.		
復習	Review new voc. words and expressions you learned in the class.		
テキスト	① American English File 1 ② Impact Issues 1		
参考書	None		
評価方法・評価基準	Classroom participation (20%) Oral presentations (20%) Listening tests (10%) Short tests (quizzes) (10%) End-of-Semester test (40%) Other methods as determined by the instructors		
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.		

講義科目名称：Oral English III

授業コード：

英文科目名称：Oral English III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-8)	選択必修A
担当教員			
Higaonna/Nieuburt・Nieuburt/Latham・柳田/Hatcher			

授業のテーマ及び到達目標	After students have some experience studying English in college, it is important for them to understand the requirement of teachers although all textbooks all the same. This level is equivalent to TOEIC 400.		
授業計画	第1回	Class Orientation+Unit 7	Class Orientation+Lesson 7
	第2回	Unit 7 Lesson 7	
	第3回	Unit 7 Lesson 7	
	第4回	Unit 8 Lesson 8	
	第5回	Unit 8 Dialogue quiz	
	第6回	Unit 9 Lesson 9	
	第7回	Dialogue quiz Lesson 9	
	第8回	Unit 10 Lesson 10	
	第9回	Unit 10 Dialogue quiz	
	第10回	Unit 11 Lesson 11	
	第11回	Dialogue quiz Lesson 11	
	第12回	Unit 12 Dialogue quiz	
	第13回	Unit 12 Lesson 12	
	第14回	Review all the units Lesson 12	
	第15回	Final test preparation	
	第16回	Final Exam	
授業の概要	To continue students developing their listening and speaking skills To improve the ability of students to communicate in English To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English		
予習	Pre read and check any uncertain voc. words in the unit.		
復習	Review new voc. words and expressions you learned in the class.		
テキスト	① American English File 2 ② Impact Issues 1		
参考書	None		
評価方法・評価基準	Classroom participation (20%) Oral presentations (20%) Listening tests (10%) Short tests (quizzes) (10%) End-of-Semester test (40%) Other methods as determined by the instructors		
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.		

講義科目名称 : Oral English IV

授業コード :

英文科目名称 : Oral English IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	4単位(0-8)	選択必修A
担当教員			
Bradley/Duckworth・柳田/Duckworth・Webb/Bradley・柳田/Hatcher			

授業のテーマ及び到達目標	After students have some experience studying English in college, it is important for them to understand the requirement of teachers although all textbooks all the same. This is equivalent to TOEIC 500.		
授業計画	第1回	Class Orientation+Unit 1 Class Orientation+Unit 1	
	第2回	Unit 1 Lesson 1	
	第3回	Unit 1 Lesson 1	
	第4回	Unit 2 Lesson 2	
	第5回	Unit 2 Lesson 2 , quiz	
	第6回	Unit 3 Lesson 3	
	第7回	Dialogue quiz Lesson 3 , quiz	
	第8回	Unit 4 Lesson 4	
	第9回	Unit 4 Lesson 4 , quiz	
	第10回	Unit 5 Lesson 5	
	第11回	Dialogue quiz Lesson 5 , quiz	
	第12回	Unit 6 Unit 6	
	第13回	Unit 6 Lesson 6 , quiz	
	第14回	Review all the units	
	第15回	Final test preparation	
	第16回	Final Exam	
授業の概要	To continue students developing their listening and speaking skills To improve the ability of students to communicate in English To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English		
予習	Pre read and check any uncertain voc. words in the unit.		
復習	Review new voc. words and expressions you learned in the class.		
テキスト	① American English File 2 ② Impact Issues 2		
参考書	None		
評価方法・評価基準	Classroom participation (20%) Oral presentations (20%) Listening tests (10%) Short tests (quizzes) (10%) End-of-Semester test (40%) Other methods as determined by the instructors		
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.		

講義科目名称 : Oral English V

授業コード :

英文科目名称 : Oral English V

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	4単位(0-8)	選択必修A
担当教員			
柳田/Bradley・Bradley/Gayler・Wodarz/Latham			

授業のテーマ及び到達目標	After students have some experience studying English in college, it is important for them to understand the requirement of teachers although all textbooks all the same.		
授業計画	第1回	Class Orientation+Unit 7	Class Orientation+Unit 7
	第2回	Unit 7 Lesson 7	
	第3回	Unit 7 Lesson 7 , quiz	
	第4回	Unit 8 Lesson 8	
	第5回	Unit 8 Lesson 8 , quiz	
	第6回	Unit 9 Lesson 9	
	第7回	Dialogue quiz Lesson 9 , quiz	
	第8回	Unit 10 Lesson 10	
	第9回	Unit 10 Lesson 10 , quiz	
	第10回	Unit 11 Lesson 11	
	第11回	Dialogue quiz Lesson 11 , quiz	
	第12回	Unit 12 Unit 12	
	第13回	Unit 12 Lesson 12 , quiz	
	第14回	Review all the units	
	第15回	Final test preparation	
	第16回	Final Exam	
授業の概要	To continue students developing their listening and speaking skills To improve the ability of students to communicate in English To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English		
予習	Pre read and check any uncertain voc. words in the unit.		
復習	Review new voc. words and expressions you learned in the class.		
テキスト	① American English File 2 ② Impact Issues 2		
参考書	None		
評価方法・評価基準	Classroom participation (20%) Oral presentations (20%) Listening tests (10%) Short tests (quizzes) (10%) End-of-Semester test (40%) Other methods as determined by the instructors		
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.		

講義科目名称 : Discussion in English I

授業コード :

英文科目名称 : Discussion in English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択必修A
担当教員			
Michael Bradley・Simon Robinson			

授業のテーマ及び到達目標	Allowing the students to debate and discuss in English
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Beauty Contests</p> <p>第3回 U.S bases in Okinawa</p> <p>第4回 Multiculturalism in Japan</p> <p>第5回 Legalizing drugs</p> <p>第6回 Gun Ownership</p> <p>第7回 Convenience Food</p> <p>第8回 Development v. Conservation</p> <p>第9回 Vegetarianism</p> <p>第10回 Gender Roles</p> <p>第11回 Okinawan Independence</p> <p>第12回 Alcohol</p> <p>第13回 Teenage pregnancy</p> <p>第14回 Private or public companies</p> <p>第15回 Assessment</p> <p>第16回 Assessment</p>
授業の概要	<p>This course is designed to get students talking in the class, as well as getting them to think about problems from different points of view. Ultimately, it will help them to express their opinions and create logical persuasive arguments. Each week, the class will discuss one controversial topic. Over the course of the semester they will also be introduced to various oratorical devices which they will be encouraged to use in their own discussion ? e.g. irony, metaphors and similes, using quotations, etc. In each class, students will hone their arguments by rehearsing in pairs and small groups before engaging in more formal, full class discussions or debates. A highlight of this class is usually a debate with native English speaker students from an American high school.</p>
予習	Prepare vocabulary and arguments for use in the class.
復習	Revise new vocabulary and debating techniques introduced in the class.
テキスト	There is no text for this course. All materials are prepared by the teacher.
参考書	—
評価方法・評価基準	<p>1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30%</p> <p>2. Final two debates (Weeks 15 & 16) 35% each.</p>
履修上の注意	Students will need to actively participate in all practice activities in order to get as much debate practice as possible prior to the final exam.

講義科目名称 : Discussion in English II

授業コード :

英文科目名称 : Discussion in English II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択必修A
担当教員			
Simon Robinson			

授業のテーマ及び到達目標	Further developing the students' ability to engage in strong debate in English on topics related to the students' experience.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the course; Review of content of D&D I; discuss and choose topics for debate for the semester</p> <p>第2回 Topic 1: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第3回 Topic 1: Debate preparation and debate</p> <p>第4回 Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第5回 Topic 2: Debate preparation and debate</p> <p>第6回 Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第7回 Topic 3: Debate preparation and debate</p> <p>第8回 Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第9回 Topic 4: Debate preparation and debate</p> <p>第10回 Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第11回 Topic 5: Debate preparation and debate</p> <p>第12回 Exam Preparation (1)</p> <p>第13回 Exam Preparation (2)</p> <p>第14回 Exam Preparation (3)</p> <p>第15回 Exam (1)</p> <p>第16回 Exam (2)</p>
授業の概要	In this course we will expand the students' ability to engage in strong debate either agreeing or disagreeing with a controversial opinion that relates to the students' experience. In particular we will expand the student's ability to debate on social issues that are broader in scope than the daily-life topics we covered in D&DI
予習	Students must arrive suitably prepared for the debate that will take place in each class.
復習	students must review debate techniques learnt in previous classes before each new class.
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka.
参考書	n/a
評価方法・評価基準	1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30% 2. Final exam 70%
履修上の注意	Discussion and Debate I (2単位) を履修済みのこと。 Students will need to participate actively and enthusiastically in all preparatory and debate activities in order to get as much practice as possible prior to the final exam.

講義科目名称 : Oral Presentation I

授業コード :

英文科目名称 : Oral Presentation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-2)	選択必修A
担当教員			
Michael Bradley・Christopher Valvona			

授業のテーマ及び到達目標	Helping students to make engaging presentations in English		
授業計画	第1回	Class orientation, preparing to make basic self-introductions	
	第2回	Giving a self introduction presentation	
	第3回	A presentation to introduce a good friend	
	第4回	Preparing a presentation about a favourite place	
	第5回	Giving a presentation about a favourite place.	
	第6回	Projecting your voice ? using word stress to add emphasis	
	第7回	Preparing presentation about a prized possession.	
	第8回	Giving a presentation about a prized possession.	
	第9回	Preparing a presentation about a memorable experience.	
	第10回	Giving a presentation about amemorable experience.	
	第11回	Focus on body language, gestures and posture	
	第12回	Preparing a presentation about how to make or do something.	
	第13回	Giving a presentation about how to make or do something.	
	第14回	Strategies for introducing and concluding presentations.	
	第15回	Preparing a review of a movie etc	
	第16回	Preparing a review of a movie etc	
授業の概要	This course will introduce the key elements of public speaking through practical experience: students will make presentations on a variety of topics related to their own experience. As well as developing their oral English skills, the students will learn how to structure presentations. We will also look at non-verbal aspects of presentation giving, including eye contact, stance and gestures. Presentations will be both teacher and peer evaluated.		
予習	Most weeks, students will need to prepare some kind of presentation.		
復習	Reviewing the teacher' s feedback and the textbook.		
テキスト	This course will use the textbook, Present Yourself 1 (Cambridge University Press.) Students will need to buy this text.		
参考書	Preparing for the presentations is an important part of this course, and will mostly be done outside of class.		
評価方法・評価基準	Participation 10%、Six Presentations 15% each		
履修上の注意	My aim for this course is for students to gain as much practical experience of presenting as is possible.		

講義科目名称 : Oral Presentation II

授業コード :

英文科目名称 : Oral Presentation II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択必修A
担当教員			
Simon Robinson・Jonathan Hatcher			

授業のテーマ及び到達目標	Allowing the students to learn to make engaging presentations in English		
授業計画	第1回	Class Orientation and Introduction, basic self-introductions, review of PSI, introduce Q&A	
	第2回	Self-introductions with Q&A	
	第3回	Free Presentations Round 1 (1)	
	第4回	Free Presentations Round 1 (2)	
	第5回	Free Presentations Round 1 (3)	
	第6回	Focused Practice Exercises (contents to be decided during the course)	
	第7回	Free Presentations Round 2 (1)	
	第8回	Free Presentations Round 2 (2)	
	第9回	Free Presentations Round 2 (3)	
	第10回	Free Presentations Round 3 (1)	
	第11回	Free Presentations Round 3 (2)	
	第12回	Free Presentations Round 3 (3)	
	第13回	Exam presentations (1)	
	第14回	Exam presentations (2)	
	第15回	Exam presentations (3)	
授業の概要	This course will build on the experience of Public Speaking I to further develop the students' ability to make presentations in English. It will follow a similar format in that students will make presentations followed by a feedback session to assess what was good and what could be better next time. We will take the checklist we used in PSI and expand on it to promote a natural speaking presence on stage, and we will also add a Question-and-Answer session at the end to test the students' ability to react to audience questions with intelligent and informative responses.		
予習	students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities		
復習	techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class		
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher. Students will need to buy this from kyoumuka.		
参考書	Preparation for the presentations is an important part of this course - students will need to prepare outside of class time.		
評価方法・評価基準	Participation30%、Free Presentations20%、Exam Presentations40%		
履修上の注意	Public Speaking & Oral Presentation I (2単位) を履修済みのこと。 My aim for this course is to give students as much practice as possible at presenting in order to really develop their skills in preparation for the final exam.		

講義科目名称 : Advanced Writing

授業コード :

英文科目名称 : Advanced Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修B
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. 習得した知識や能力を更に高める。授業時間内の演習を行い、十分な議論を考え出し、組み立て、一貫させるため、さらに技術を向上させる。レトリックの方法や、それが議論の際どのように役立つかに関する説明も行われる。主な内容としては、リサーチやサマリーの方法、ノートのとおり方、適切な引用により主張を裏付けること、議論を展開すること、などがあげられる。学生は、日常生活に影響を与える問題や、学問、社会、政治、経済に関わる問題に真剣に考えるよう促させる。卒業論文のため、関心分野を探す助けとなる。
授業計画	<p>第1回 Introduction introductions review syllabus H O M E W O R K: read short essay "Sugar: Friend of Foe" pgs. 3-4</p> <p>第2回 Discussions of readings 1 discussion of Unit 1 in small groups finish exercises H O M E W O R K: read Unit 2, pgs. 8-14</p> <p>第3回 Discussions of readings 2 discussion of Unit 2 finish all exercises in class H O M E W O R K: -finish brainstorming, outlining, and drafting first essay for Day 4 -read Unit 3 to understand any new vocabulary and the purpose of Peer Review during next class</p> <p>第4回 Peer review bring a copy of your essay to share with your classmate work through Unit 3 together H O M E W O R K: -finish your the Peer Review of your classmate's essay for the next class</p> <p>第5回 Finish peer review finish up Peer Review process, refer to "Put it Together" pg. 22 writers' workshop for essay H O M E W O R K: -read Unit 4 to understand any new vocabulary and the purpose of Researching during next class</p> <p>第6回 Discussions of readings 3 discussion of Unit 4 finish all exercises H01 Exercise in Online Research H O M E W O R K: -read and follow directions in "Put it Together" pg. 29 -read Unit 5 to understand any new vocabulary and the purpose of Outlining during next class</p> <p>第7回 Brainstorming and outline submit essay for grading give a lecture on brainstorming and outlining, how to move from subject area to topic, to brainstorming and creating an outline. discussion of Unit 5 finish all exercises H O M E W O R K: -read Unit 6 to understand any new vocabulary and the purpose of Avoiding Plagiarism during next class</p> <p>第8回 Discussions of readings 4 discussion of Unit 6 finish all exercises H O M E W O R K: -read and follow directions in "Put it Together" pg. 49 -read Unit 7 to understand any new vocabulary and the purpose of The Language of the Research Paper during next class</p> <p>第9回 Discussions of readings 5 discussion of Unit 7 finish all exercises read and follow directions in "Put it Together" pg. 59 H O M E W O R K: -read Unit 8 to understand any new vocabulary and the purpose of Writing the First Draft during next class</p> <p>第10回 Discussions of readings 6</p>

	<p>discussion of Unit 8 finish all exercises H O M E W O R K: -read and follow directions in “Put it Together” pg. 66 -read exercises 8 to 11 on pgs. 67 to 68 to prepare for discussions during next class</p> <p>第11回 Discussions of exercises and Writers’ Workshop discussion of exercises writers’ workshop for research paper H O M E W O R K: -read Unit 9 to understand any new vocabulary and the purpose of In-Text Citations during next class</p> <p>第12回 Writers’ Workshop 2 discussion of exercises writers’ workshop for research paper H O M E W O R K: -read Unit 10 to understand any new vocabulary and the purpose of academic language -do exercise 4 on pg. 78, exercises 8 and 9 on pg. 81, and exercise 10 on pg. 82</p> <p>第13回 Discussion of exercises 2 discussion of exercises writers’ workshop for research paper discussion of Unit 12 H O M E W O R K: -prepare your presentation for the next two classes</p> <p>第14回 Presentations 1 students’ presentations</p> <p>第15回 Presentations 2 students’ presentations</p> <p>第16回 Course submissions finalize and submit final research paper</p>
授業の概要	This course expands on knowledge and skills gained in ECII. Students practice exercises and undertake an academic research project that develops skills in generating and developing fully developed arguments. Researching, summarizing, note-taking and using sources to support claims and develop discussions are all features of the course. Students are encouraged to think critically about issues that affect their lives or areas of social, political, or economic interest.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Writing Research Papers (Macmillan Writing Series ISBN: 978-0-230-42194-3)
参考書	No other materials are needed.
評価方法・評価基準	Presentation = 10% Short Essay = 30% Research Paper = 40% Participation = 20%
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.

講義科目名称：簿記論

授業コード：

英文科目名称：Bookkeeping

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
多賀 寿史			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の決算書の仕組みを理解し作成できるようになること。 ・会社の決算書が読めるようになること。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・簿記とは？</p> <p>第2回 商品売買</p> <p>第3回 現金預金</p> <p>第4回 手形</p> <p>第5回 有価証券と固定資産</p> <p>第6回 棚卸資産</p> <p>第7回 その他取引(その1)</p> <p>第8回 その他取引(その2)</p> <p>第9回 決算の仕組み(その1)</p> <p>第10回 決算の仕組み(その2)</p> <p>第11回 成績表の評価方法その1</p> <p>第12回 成績表の評価方法その2</p> <p>第13回 実際に決算書の評価してみようその1</p> <p>第14回 実際に決算書の評価してみようその2</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	現代の経済社会において、営利企業は成績表(財務諸表といいます)を作成し、問題点を把握し次年度以降の経営活動に活かしています。また各種利害関係者にも自社の成績を公表しています。企業の経営成績の作成プロセスが複式簿記であり、本講義のではこの複式簿記のプロセスを学びます。と同時に、会社の成績表の読み方の基本を学びます。
予習	今回のテーマの箇所を事前に読んで講義に参加してください。
復習	毎回講義の終了時に復習問題を出します。次回の講義で提出してもらいます。
テキスト	テキストは用いません。配布資料を用いて講義します。
参考書	みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 第4版(972+税) みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 第4版(972+税)
評価方法・評価基準	評価は、課題の提出3割、期末試験7割で評価します。出席は毎回必ず取りりますので、出席は必ずしましょう。
履修上の注意	毎回出席を取ります。出席しましょう！簿記に電卓は必須です。電卓を持参しましょう！ テキストの方は受講者は全員購入してください。参考書の方は、日商簿記3級を受験してみようという学生は必ず購入してください。

講義科目名称：同時通訳 I

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択必修D
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・同時通訳に必要な訓練をこなすことができる ・基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解する
授業計画	<p>第1回 通訳とは、同時通訳と他の通訳の違い、通訳のための訓練とは</p> <p>第2回 シャドウイング（発音、イントネーションの練習）</p> <p>第3回 語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第4回 予測練習</p> <p>第5回 リテンション・リプロダクション</p> <p>第6回 サイト・トランスレーション</p> <p>第7回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1</p> <p>第8回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2</p> <p>第9回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1</p> <p>第10回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2</p> <p>第11回 通訳者としての立ち振る舞い（マナー）</p> <p>第12回 メモ取り</p> <p>第13回 逐次通訳（日→英）</p> <p>第14回 逐次通訳（英→日）</p> <p>第15回 同時通訳の総合演習</p>
授業の概要	<p>同時通訳者は特別な人だけがなれると思いませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、キック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNNやNHK（日英両語）のニュースなども教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。</p>
予習	配布資料の予習
復習	授業内容の反復と応用
テキスト	授業担当教員が準備・配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業中のパフォーマンス 100%
履修上の注意	USBメモリ持参のこと。シャドーイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。

講義科目名称：同時通訳Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択必修D
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・同時通訳に必要な訓練をこなすことができる ・基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解する
授業計画	<p>第1回 通訳とは、同時通訳と他の通訳の違い、通訳のための訓練とは</p> <p>第2回 シャドウイング（発音、イントネーションの練習）</p> <p>第3回 語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第4回 予測練習</p> <p>第5回 リテンション・リプロダクション</p> <p>第6回 サイト・トランスレーション</p> <p>第7回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1</p> <p>第8回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2</p> <p>第9回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1</p> <p>第10回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2</p> <p>第11回 通訳者としての立ち振る舞い（マナー）</p> <p>第12回 メモ取り</p> <p>第13回 逐次通訳（日→英）</p> <p>第14回 逐次通訳（英→日）</p> <p>第15回 同時通訳の総合演習</p>
授業の概要	<p>同時通訳者は特別な人だけがなれると思いませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、キック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNNやNHK（日英両語）のニュースなども教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。</p>
予習	配布資料の予習
復習	授業内容の反復と応用
テキスト	授業担当教員が準備・配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業中のパフォーマンス 100%
履修上の注意	USBメモリ持参のこと。シャドウイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。

講義科目名称：フレッシュマン・セミナー

授業コード：

英文科目名称：Freshman Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(1-1)	必修科目
担当教員			
柳田 正豪・作田 真由子			

授業のテーマ及び到達目標	大学環境に慣れるだけでなく、卒業後のイメージを持つことができ、英語科で過ごす二年間の学生生活の一つひとつに自分の将来と関連した意義を見出すことができるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、初年次教育の意義</p> <p>第2回 自己紹介をしよう (1)クラスメートの名前を知ろう (2)自己紹介をしよう</p> <p>第3回 基礎力セルフチェックー現在の基礎力を確認し、目標を設定する</p> <p>第4回 大学生とは (1)生活を自己管理する (2)沖縄キリスト教短期大学の2年間</p> <p>第5回 受講の心得 (1)受講のマナー (2)ノートの取り方 (3)資料の整理法</p> <p>第6回 英語の勉強法</p> <p>第7回 情報収集の技術ー情報リテラシー</p> <p>第8回 コミュニケーションの基本ー話す技術</p> <p>第9回 コミュニケーションの基本ー書く技術</p> <p>第10回 相談したいとき</p> <p>第11回 課外活動のすすめ</p> <p>第12回 グループで学ぶ</p> <p>第13回 課題を共有しよう</p> <p>第14回 二年後の私</p> <p>第15回 まとめ、レポート提出</p>
授業の概要	短期大学では、二年という短期間で短期大学士としての教養、専門知識を習得するとともに、十分な社会人基礎力も身につけて現代社会に臨む必要がある。このため、入学前教育（ブリッジ・プログラム）と連携した初年次教育（フレッシュマン・セミナー）を実施し、入学生がよりスムーズに大学環境に適応できるようにサポートしたい。
予習	シラバスの内容に関してリサーチしておく
復習	授業内容を実際の学生生活に応用する
テキスト	なし
参考書	なし
評価方法・評価基準	課題30% テスト30% 授業への参加度40%
履修上の注意	与えられた課題を期限内に提出すること

講義科目名称 : Current Issues Online

授業コード :

英文科目名称 : Current Issues Online

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択必修C
担当教員			
Michael Bradley			

授業のテーマ及び到達目標	The main objective of this course is to improve students' writing and critical thinking. It will also help them become more comfortable with online news sources. They will study local, national, and international current issues which all have a bearing on their lives.
授業計画	<p>第1回 Introduction and orientation to the course and the software provided by Coursebase</p> <p>第2回 Reproduction issues</p> <p>第3回 Rewrite assignment 1</p> <p>第4回 Bullying in schools and the workplace</p> <p>第5回 Rewrite assignment 2</p> <p>第6回 Hikikomori</p> <p>第7回 Rewrite assignment 3</p> <p>第8回 Drinking and driving</p> <p>第9回 Rewrite assignment 4</p> <p>第10回 Consumerism</p> <p>第11回 Rewrite assignment 5</p> <p>第12回 Slave labour</p> <p>第13回 Rewrite assignment 6</p> <p>第14回 Henoko trip</p> <p>第15回 Rewrite assignment 7</p> <p>第16回 Final Exam</p>
授業の概要	This course will be conducted every week in a computer lab on campus. Students are required to attend class, (just like their other subjects.) Every other week the students will watch some videos online and respond in writing to questions set by the teacher. The teacher will correct any mistakes and in the following class, students will rewrite their answers for final submission. The teacher will also introduce news stories of interest for discussion, as and when they arise. By the end of this course, the student should be more comfortable working and learning in an online environment. They should also have developed a greater understanding of current issues and a greater ability in thinking, talking and writing about those issues.
予習	Students should familiarize themselves with the topic before every class, to enable them to better understand the lesson. It is also very important that they rewrite their assignments paying close attention to the teacher's corrections.
復習	Students have to write a report after every topic.
テキスト	—
参考書	—
評価方法・評価基準	7 Assignments 10% each. Final exam 30 %
履修上の注意	—

講義科目名称 : English Bible Reading

授業コード :

英文科目名称 : English Bible Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
山里 恵子			

授業のテーマ及び到達目標	This class is designed to help you understand the central ideas of the Christian faith by reading short essays or articles that discuss themes from the Bible.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the course</p> <p>第2回 Learning your ABCs from the Bible (Cap. 3)</p> <p>第3回 Daniel 1</p> <p>第4回 Daniel 2</p> <p>第5回 Joseph in Genesis 1</p> <p>第6回 Joseph in Genesis 2</p> <p>第7回 Overview Discussion</p> <p>第8回 The Temptation in the Wilderness (The Living Story of the New Testament by Walter Russel Bowie)</p> <p>第9回 Parables II: Mor Stories with a Point (Chap. 6)</p> <p>第10回 The Shadow of Approaching Danger (The Living ...)</p> <p>第11回 Jesus Sets His Face Toward Jerusale (The Living ...)</p> <p>第12回 The Last Supper, Communion, and Baptism (Chap. 9)</p> <p>第13回 The Last Supper .../Summary</p> <p>第14回 Political Power versus Spiritual Power (Chap. 10)</p> <p>第15回 Political Power .../Summary</p> <p>第16回 General overview</p>
授業の概要	The focus of the class is put on understanding the essays and the parts of the Bible quoted in them. However, it is hoped that by focusing on the content and meaning of some essays or articles, you will be able to improve your English reading ability as well.
予習	The students are expected to read the the scheduled part in the syllabus previously and check the meaning of each word which seems new to you.
復習	The students are expected to master the important words in each lesson and review the content of the lesson by reading the text they studied in class and checking the notes they took in class.
テキスト	1. Themes from the Bible by R.H. Thrasher, 2. The Living Story of the New Testament by Walter Russell Bowie, Prentice-Hall, INC, 3. Bilingual Bible, New International version, いのちのことば社 (それぞれプリントが用意されている)
参考書	日英語の聖書
評価方法・評価基準	定期試験 : 60% 毎回の小テスト : 20% 課題提出 : 10% 受講者の発表 : 10%
履修上の注意	You are excepted to check the meaning of the words in each text previously and be ready to read around when you are asked. You are also expeted to join in the discussion when the time for it is set by the instructor. Regular attendance is highly required.

講義科目名称：英語検定演習 I

授業コード：

英文科目名称：Practice for English Proficiency Test I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
作田 真由子			

授業のテーマ及び到達目標	語彙力・長文読解力・リスニング理解力を英検準2級レベルまで伸ばすことを目標とする。
授業計画	<p>第1回 英語検定演習 I のオリエンテーション及びミニテスト</p> <p>第2回 語彙</p> <p>第3回 語彙</p> <p>第4回 長文読解</p> <p>第5回 長文読解</p> <p>第6回 リスニング</p> <p>第7回 リスニング</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 総合演習 I</p> <p>第10回 総合演習 II</p> <p>第11回 総合演習 III</p> <p>第12回 総合演習 IV</p> <p>第13回 総合演習 V</p> <p>第14回 総合演習 VI</p> <p>第15回 総合演習 VII</p> <p>第16回 まとめ</p>
授業の概要	TOEICのビジネス傾向長文やリスニングだけでなく、経済、医学、教育といった幅広い分野の語彙・長文・リスニングに対応してもらおう。英検準2級レベルの題材を中心として扱う。TOEIC 350点レベルに相当。
予習	毎回の小テストの予習をすること
復習	各単元の復習をすること
テキスト	配布資料を利用する
参考書	英検PASS単熟語準2級
評価方法・評価基準	課題50%、テスト50%
履修上の注意	英検準2級を目指すもの

講義科目名称：英語検定演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Practice for English Proficiency Test Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
作田 真由子			

授業のテーマ及び到達目標	語彙力・長文読解力・リスニング理解力を英検2級レベルまで伸ばすことを目標とする。
授業計画	<p>第1回 英語検定演習Ⅱのオリエンテーション及びミニテスト</p> <p>第2回 語彙</p> <p>第3回 語彙</p> <p>第4回 長文読解</p> <p>第5回 長文読解</p> <p>第6回 リスニング</p> <p>第7回 リスニング</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 総合演習Ⅰ</p> <p>第10回 総合演習Ⅱ</p> <p>第11回 総合演習Ⅲ</p> <p>第12回 総合演習Ⅳ</p> <p>第13回 総合演習Ⅴ</p> <p>第14回 総合演習Ⅵ</p> <p>第15回 総合演習Ⅶ</p> <p>第16回 まとめ</p>
授業の概要	TOEICのビジネス傾向長文やリスニングだけでなく、経済、医学、教育といった幅広い分野の語彙・長文・リスニングに対応してもらおう。英検2級レベルの題材を中心として扱う。TOEIC 500点レベルに相当。
予習	毎回の小テストの予習をすること
復習	各単元の復習をすること
テキスト	配布資料を利用する
参考書	英検PASS単熟語2級
評価方法・評価基準	課題50%、テスト50%
履修上の注意	英検準2級をすでに修得しているか、それと同等の英語力を持っているもの

講義科目名称 : English & American Literature

授業コード :

英文科目名称 : English & American Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
作田 真由子			

授業のテーマ及び到達目標	Students are required to read and appreciate representative works of prominent writers in the history of English and American literature. In addition to knowledge of literature, students will also obtain a good amount of reading skills and knowledge of English words and expressions.
授業計画	<p>第1回 Geoffrey Chaucer</p> <p>第2回 William Shakespeare</p> <p>第3回 William Shakespeare</p> <p>第4回 John Donne</p> <p>第5回 William Wordsworth</p> <p>第6回 Emily Bronte</p> <p>第7回 Oscar Wilde</p> <p>第8回 Harold Pinter</p> <p>第9回 Peter Shaffer</p> <p>第10回 Benjamin Franklin</p> <p>第11回 Edgar Allan Poe</p> <p>第12回 Mark Twain</p> <p>第13回 Robert Frost</p> <p>第14回 Sherwood Anderson</p> <p>第15回 Ernest Hemmingway</p>
授業の概要	Students will read some works of English or American literature. Then, they are required to translate them into Japanese, comment, or write some essays on them.
予習	Students read some designated materials.
復習	Students read and understand the materials and prepare for quizzes.
テキスト	プリント配付
参考書	神山妙子編著「はじめて学ぶイギリス文学史」(ミネルヴァ書房) 板橋好枝/高山賢一編著「はじめて学ぶアメリカ文学史」(ミネルヴァ書房)
評価方法・評価基準	小テスト60%、課題や発表40%
履修上の注意	日頃から英米の文学作品を、日本語訳でもよいので読んでおくこと。

講義科目名称：Business Writing

授業コード：

英文科目名称：Business Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択必修D
担当教員			
スミス 陽子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：国際的ビジネスシーンへの総括的な理解を深める 思考判断：英語で考える思考判断能力を身につける 関心意欲：英語でのコミュニケーション技術取得へ関心をもつ 態度：真摯に取り組む態度で望む
授業計画	<p>第1回 講義の概要・進め方、評価方法等の説明</p> <p>第2回 ビジネスのグローバル化・コミュニケーションと国際ビジネス</p> <p>第3回 商業英語とは何か</p> <p>第4回 就職活動・英文履歴書の書き方</p> <p>第5回 面接の準備と対応</p> <p>第6回 ビジネス英語リスニング訓練</p> <p>第7回 電話での対応</p> <p>第8回 ビジネス英語スキット（スピーキング）</p> <p>第9回 ビジネスレターの書き方、小テスト</p> <p>第10回 ファクス、メモ、E-mailの書式と書き方</p> <p>第11回 海外からの顧客の接遇とコミュニケーション</p> <p>第12回 海外へのビジネストリップ</p> <p>第13回 時事・経済英語の理解</p> <p>第14回 時事・経済英語の理解、小テスト</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	グローバル化した現代において、異なった文化・習慣を持ち、しかも異なった言語を話す人々と国際ビジネスを効果的に進めていくための必要な要件は何か。一つは正確に意志の疎通ができる語学力(英語力)である。二つは国際社会におけるビジネスの慣習・ルール、そしてマナー等のコミュニケーション技術を身につけることである。本講義では、就職活動の流れ、英文履歴書の書き方、商業文書の作成、電話での対応ビジネス英会話、プレゼンテーションの基本、電子メールの書き方、接遇とコミュニケーション等の基本的な国際ビジネス実務を学習する。そして実際の場面において、自信を持って駆使できる英語表現力とコミュニケーション技術の向上を図る。
予習	次回のレッスンを一読する。 前までの週のボキャブラリーを暗記してくる。
復習	その日、その日のレッスンを毎日音読する。 その日の新しいボキャブラリーを暗記する。
テキスト	城由紀子・島田拓司・Schaefer, E. J. 『BUSINESS TALK (やさしいオフィス英語)』 成美堂
参考書	田仲武雄『初めて学ぶビジネス英語』 成美堂 『CNN English Express』 朝日出版 Gary Joseph Grappo and Adele Lewis (豊田英子訳) 『英文履歴書の書き方』 アルク
評価方法・評価基準	授業への参加度 (15%)、小テスト (40%)、課題提出 (30%)、授業態度等 (15%) を総合的に判断して評価。
履修上の注意	①テキスト、ノート、筆記用具、辞典を持参すること ②予定の項目に目を通しておくこと ③無断欠席、遅刻をしないこと ④提出物の期限を守ること

講義科目名称：通訳実践活動

授業コード：

英文科目名称：Interpretation Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	1単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
柳田 正豪			

授業のテーマ及び到達目標	教室で学んだ通訳を地域社会で実践し、知識・技術を高めるとともに社会貢献をする。
授業計画	在学中に行った通訳の実践活動（30時間）をレポート形式にまとめ、担当教員に提出する。必要に応じて参考資料も提出する。
授業の概要	通訳の授業等で学んだことを活かし、地域社会のニーズに応じて行う通訳（同時、逐次、アテンドなど）の実践活動を評価する。
予習	通訳内容に関してリサーチを十分に行う
復習	行った通訳を振り返り、今後に活かす
テキスト	なし
参考書	なし
評価方法・評価基準	レポートおよび面談：100%
履修上の注意	—

講義科目名称：同時通訳実践演習 I (Chapel Service)

授業コード：

英文科目名称：Chapel Service Interpretation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖繩から平和を作り出す意義を大切に建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 月曜礼拝通訳の実践1</p> <p>第2回 月曜礼拝通訳の実践2</p> <p>第3回 月曜礼拝通訳の実践3</p> <p>第4回 キリスト教講演会通訳</p> <p>第5回 月曜礼拝通訳の実践4</p> <p>第6回 月曜礼拝通訳の実践5</p> <p>第7回 月曜礼拝通訳の実践6</p> <p>第8回 月曜礼拝通訳の実践7</p> <p>第9回 月曜礼拝通訳の実践8</p> <p>第10回 月曜礼拝通訳の実践9</p> <p>第11回 月曜礼拝通訳の実践10</p> <p>第12回 月曜礼拝通訳の実践11</p> <p>第13回 月曜礼拝通訳の実践12</p> <p>第14回 月曜礼拝通訳の実践13</p> <p>第15回 まとめとフィードバック</p>
授業の概要	前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳(場合により逐次通訳)を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。
予習	配布資料を研究しておく
復習	実際に行ったパフォーマンスを振り返って分析する
テキスト	礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料(その都度配布します)
参考書	聖書(日本語、英語)、その他内容に応じた資料(その都度指定します)
評価方法・評価基準	礼拝等における通訳実践 100%
履修上の注意	「同時通訳 I」または「同時通訳 II」を履修中または履修済みであることが望ましい。

講義科目名称：同時通訳実践演習Ⅱ（Chapel Service）

授業コード：

英文科目名称：Chapel Service Interpretation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖縄から平和を作り出す意義を大切に建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。		
授業計画	第1回	月曜礼拝通訳の実践1	
	第2回	月曜礼拝通訳の実践2	
	第3回	月曜礼拝通訳の実践3	
	第4回	キリスト教講演会通訳	
	第5回	月曜礼拝通訳の実践4	
	第6回	月曜礼拝通訳の実践5	
	第7回	月曜礼拝通訳の実践6	
	第8回	月曜礼拝通訳の実践7	
	第9回	月曜礼拝通訳の実践8	
	第10回	月曜礼拝通訳の実践9	
	第11回	月曜礼拝通訳の実践10	
	第12回	月曜礼拝通訳の実践11	
	第13回	月曜礼拝通訳の実践12	
	第14回	月曜礼拝通訳の実践13	
	第15回	まとめとフィードバック	
授業の概要	前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。		
予習	配布資料を研究しておく		
復習	実際に行ったパフォーマンスを振り返って分析する		
テキスト	礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）		
参考書	聖書（日本語、英語）、その他内容に応じた資料（その都度指定します）		
評価方法・評価基準	礼拝等における通訳実践 100%		
履修上の注意	「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」を履修中または履修済みであることが望ましい。		

講義科目名称 : Okinawan Studies

授業コード :

英文科目名称 : Okinawan Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択必修D
担当教員			
David Ulvog			

授業のテーマ及び到達目標	The objective of this class is for students to use English to acquire a more proficient understanding of Okinawa through a variety of contemporary subjects and to improve their language skills and knowledge of the subject matter.		
授業計画	第1回	Orientation; geology, and geography, the constituent islands, population and units of local government	
	第2回	Outline of Ryukyuan history to 1879; quiz	
	第3回	Outline of Okinawan history, 1879 to 2000; quiz	
	第4回	Iha Fuyu, the origins of Ryukyuan・Okinawan Studies, and Iha's critics, quiz	
	第5回	Karate; quiz	
	第6回	Lacquer; quiz	
	第7回	Ceramics and the mingei undo; the Dialect Controversy; quiz	
	第8回	Textiles; mid-term summary quiz	
	第9回	Classical music and dance; quiz	
	第10回	Architecture and masonry; quiz	
	第11回	Okinawa's UNESCO World Heritage Sites; quiz	
	第12回	Pacifism in Okinawa; quiz	
	第13回	Pacifism in Okinawa; quiz	
	第14回	Okinawan cuisine, awamori, longevity and health foods; quiz	
	第15回	Student choice: women's history or education in Okinawa	
	第16回	Final summary quiz	
授業の概要	沖縄について、特に琉球王国の近代日本への吸収から今日までの歴史的経過や文化の概要の紹介を目的とする。王国時代についても必要事項について言及しつつ、米国や日本からの外圧、王国内の社会的、政治的關係や発展に焦点を当てる。英語のアーカイブ現代資料を利用し戦後沖縄の状況についての紹介をすると同時にG. H. カーやChalmers Johnson、大田昌秀などの研究者の様々な見解を紹介検討する。琉球・沖縄の驚嘆すべき文化の興隆から数項目を選び検討する。講義ではパワーポイントを使用する。日本語のキーワードを紹介しつつ英語で講義を行うことにより期せずして学生の英語聴解力、会話力、読解力の向上を促す。		
予習	Students should gather data about upcoming themes in order to make the class more fruitful		
復習	Students should review previously learned information, as previous topics will feed into future topics		
テキスト	n/a		
参考書	資料リストは最初の講義に配布する。		
評価方法・評価基準	1) 質疑応答を通じての積極的姿勢、時間厳守(重視する)、授業への参加度、意識・関心度 2) 講義内容についての事前学習 3) 復習クイズ(毎週)、中間及び期末クイズ		
履修上の注意	特になし		

講義科目名称：Global Issues

授業コード：

英文科目名称：Global Issues

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択必修D
担当教員			
David Ulvog			

授業のテーマ及び到達目標	グローバル・イシューと社会責任について学ぶ 知識理解：グローバル・イシューを理解する 関心意欲：グローバル・イシューに取り組む意欲をもつ 思考判断：グローバル・イシューに対する自己見解を持つ 態度：グローバル・イシューに対する地球市民としての社会責任を認識することが出来る
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 地球規模の課題とは</p> <p>第3回 「ミレニアム開発目標」と国連</p> <p>第4回 人間の安全保障その1（貧困）</p> <p>第5回 人間の安全保障その2（紛争）</p> <p>第6回 途上国とキャパシティー・ディベロップメント</p> <p>第7回 開発と資源、富の分配</p> <p>第8回 食料とエネルギー問題</p> <p>第9回 AIDS、パンデミックと国際保健</p> <p>第10回 国際テロリズム</p> <p>第11回 地球環境問題その1</p> <p>第12回 地球環境問題その2</p> <p>第13回 NGOと国連</p> <p>第14回 教育、人権、ジェンダーWID</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 総括</p>
授業の概要	グローバル化が進むなか、国際社会がともに取り組むべき地球規模の課題（グローバル・イシュー）は、年々増加・多様化している。環境問題や紛争、難民など国境を越えて連携しなければ解決しない問題について理解を深める。
予習	毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。
復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する
履修上の注意	調査活動への参加は授業外、校外活動となります

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：「文化」という概念を説明できる。「ヒト」の特性を理解し説明できる。</p> <p>関心意欲：自己と他者の関係性に興味を持てる。「人間」という存在に対して哲学的興味を持つようになる。</p> <p>思考判断：社会的構築物としての概念を指摘できる。「常識」を批判的思考で捉えられるようになる。</p> <p>態 度：既存概念に疑いを持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 「文化人類学」とは？「文化」とは？ 「文化」や「人類」など基本的な概念について学ぶ。心理学や社会学など、他の学問領域からも積極的に引用し、人類に対する理解を深める。</p> <p>第2回 「ヒト」の歴史 宇宙の歴史、地球の歴史、そして人類の歴史を振り返る。改めて「ヒト」という存在を認識する。またホモ・サピエンスに特徴的な二足歩行や社会性、脳の発達などについて学ぶ。</p> <p>第3回 人類とコミュニケーション 脳の発達に伴い、高度な社会性とコミュニケーション能力を身につけた人類の特徴について学ぶ。男女によるコミュニケーションスタイルの差異や文化による違いについても学ぶ。</p> <p>第4回 言語人類学 レヴィ・ストロースやフランツ・ボアズに加え、ソシュールの言語学について学ぶ。高度に発達した人類の言語の特徴や、言語に対する様々な考え方について学ぶ。</p> <p>第5回 文化とアイデンティティ 「自己」と「他者」の関係や、文化人類学における文化的他者との向き合い方について学ぶ。哲学や心理学などからも引用しつつ、「自己」という存在について深く理解する。</p> <p>第6回 「自己」と「他者」～境界線と二分法の脱構築～ 社会に存在する様々な二分法的概念と自己理解のメカニズムについて学ぶ。文化人類学の歴史において、文化的他者との出会いと異界序列の暴力的関係が、社会の人間関係に深く反映されている現実について理解する。</p> <p>第7回 構造主義とポスト構造主義 マルクス主義やフロイトの精神分析学を通して構造主義を理解する。またミシェル・フーコーの「権力」の概念やパノプティコンなどを通して、現代社会に生きる「ヒト」の存在を確認する。</p> <p>第8回 フロイトと無意識 「無意識」という精神領域について考える。ユング心理学などを通して、人類の無意識が日常生活や知的活動にどのような影響を及ぼしているのか、考えてみる。</p> <p>第9回 フロイトと精神分析学 近代性と文明が人類に何をもたらしたのか、フロイトの精神分析学を通して考えてみる。またニーチェやアドラーなどにも触れ、人類の歩みをより深く理解する。</p> <p>第10回 テクノロジーと人類 様々なテクノロジーの発達に伴って、人類の暮らしや関係、精神構造までも変化を遂げてきた。IT技術やコンピューターテクノロジーの発達は、私たちの生き方自体を変えてきた。スマートフォンやSNSが身近になることで人類はどのような変化を遂げ、またこの先どのように変わっていくのだろうか。監視システムの発達やビッグデータ、スマホ依存症やIoTの拡大など、私たちの生活を取り巻く変化に着目し、将来の展望について議論する。</p> <p>第11回 人工知能と人類の未来（1） 人工知能の出現は、これからの人類のあり方を劇的に変えることだろう。映画『マトリクス』の世界を例に、人工知能と人類のあるべき関係性について考える。</p> <p>第12回 人工知能と人類の未来（2） 未来予測やビッグデータによる社会活動の変化など、実際に始まっている人工知能の利用と、その可能性・危険性について考える。</p> <p>第13回 人工知能と人類の未来（3） アンドロイドの開発やロボットの日常化で、私たちの生活はどう変わるのか。人間同士の関係、人間と人工知能との関係はかつてない変化の局面を迎えることになるだろう。新しいテクノロジーに依存して生活し、精神的にも依存を高める人類のこれからについて考える。</p> <p>第14回 人類の未来 様々な分野で人間の能力を超え、これから仕事までも奪っていくだろうと予測される人工知能の存在。そんな現実と直面して、人間はどのような生き方の選択を迫られるのだろうか。「人間らしさ」とは何だろうか。人工知能にできなくて人間にできることは何だろうか。改めて人間という存在について考えてみる。</p> <p>第15回 人間という存在（総括） これまでの講義を振り返り、人間という存在について改めて考える。特に人工知能との比較において、人間の特性を脳科学や心理学を引き合いに考える。人類の未来を考えるとともに、一人の人間として私たちに迫られた選択について議論する。</p>
授業の概要	<p>私たちの日常生活に存在する「文化」と「人類」に関する様々な課題を考える。15世紀に始まった大航海時代の異文化観からグローバル時代の文化人類学に至るまでの歴史を追い、「ヒト」と「文化」に対する考え方の変化を理解する。また、沖縄という現実を通して、文化人類学という学問が、わたしたちの社会生活にどのように影響を及ぼしてきたかを学ぶ。人工知能の発達が、人類の様々な生活分野にどのような影響を与えるのか、また「人間とは」や人間の存在意義について考える。</p>
予習	<p>次回の内容予告を受け、基礎的な概念について調べておくこと。</p>

復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連を再確認すること。
テキスト	講義に必要なテキストならびに資料は、担当者がその都度準備する。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。他者へのリスペクトを常に意識してください。私語などの授業妨害行為は許されません。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新のニュースや授業で取り扱ったテーマを取り巻く状況について把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	<p>21世紀における平和構築の可能性を考える。 知識理解：世界の現状を説明できる。 関心意欲：発展途上国の課題に興味を持てる。 思考判断：「グローバリゼーション」とその問題を指摘できる。 態度：地球市民としての意識を持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 「平和」と「暴力」 「平和」という概念を再考する。平和はなぜ必要なのか、平和である必要はあるのか、など根本的な問いに改めて答える。</p> <p>第2回 世界における紛争の現状（1） アフリカ・シエラレオネ共和国の内紛を例に、「子ども兵士」や「植民地支配」、「人種差別」や「武器輸出入」など、多くの紛争地帯に共通する問題を考え理解する。</p> <p>第3回 世界における紛争の現状（2） 引き続き、世界（特にアフリカ）を取り巻く歴史や政治をもとに、紛争が起きる原因を考える。レアアースなどの天然資源・鉱物資源の輸入を例に、私たちの生活と紛争の関連性、日本国と紛争地域の関わりについて考える。</p> <p>第4回 人種差別と多文化共生（1） アメリカ合衆国における人種差別・民族対立の問題を例に、共生共存の課題と可能性について考える。</p> <p>第5回 人種差別と多文化共生（2） 引き続き、民族間・宗教間の対立と共生の可能性を探る。また日本におけるマイノリティの現状や「ヘイトスピーチ」の問題についても考える。</p> <p>第6回 ジェンダー・ジャスティス（1） 世界になお根深く存在する性差別の問題について考える。紛争地帯におけるジェンダー・ジャスティスの問題やネパールの人身売買の例を通して「ジェンダー」と平和について考える。</p> <p>第7回 ジェンダー・ジャスティス（2） 日本におけるジェンダー規範と差別の問題を考える。またセクシャル・マイノリティの課題についても理解する。アメリカ合衆国におけるLGBTを取り巻く現状や人権の課題などについても考える。</p> <p>第8回 国際テロリズムとは —9.11以降の世界 「テロリズム」とは何かを理解する。「イスラム国」を例に、アメリカの中東政策の歴史やパレスチナ・イスラエル問題などを通して、テロリズムを深く考える。</p> <p>第9回 グローバル化する難民問題 シリア難民を始めとする多くの難民の直面する問題について考える。難民が生まれる背景や、各国の受け入れに対する考え方なども理解する。日本国の難民政策についても考える。</p> <p>第10回 軍事主義と軍産複合体（1） 軍事主義と人権について考える。また経済的側面から世界の紛争を考える。特に国連安全保障理事会メンバー国における軍産複合体の現状を理解する。軍事費が拡大の一途をたどる日本国の軍事主義と軍産複合体についても考える。</p> <p>第11回 軍事主義と軍産複合体（2） アメリカにおける軍産複合体の歴史と愛国主義、戦争がビジネスとして成り立つ理由について考える。またその犠牲となる兵士たちの現状についても理解する。アメリカ海兵隊のブートキャンプ（新兵訓練場）の例を通して、どのようにして一兵士が愛国心と軍事主義的価値観を内面化し、戦場へと向かうのか、理解する。</p> <p>第12回 アメリカの世界的軍事戦略と在日米軍基地 アメリカの世界的軍事戦略と日米同盟、そして在日特に在沖米軍基地の問題について考える。第二次世界大戦終結から現在に至るまで、沖縄における平和運動の歴史や日米の軍事主義に対する様々な抵抗のあり方について議論を深める。</p> <p>第13回 キリスト教と平和 カトリックの聖人マザーテレサやキング牧師の活動を通して、信仰と平和のあり方を学ぶ。</p> <p>第14回 地球市民社会の創造 地球社会と地域社会を結び、平和を実現するために必要なことについて議論を深める。平和な社会を実現するためにどのような社会の仕組みや法律、文化などが有効なのかについて考える。</p> <p>第15回 地球市民の一人として（総括にかえて） Think globally and locally, act globally and locally, change personally というスローガンを通して、今の時代に生きる私たちに必要な意識や行動について考える。一人ひとりにできること、やるべきことをあげ、平和を作る社会の一員としての自己を振り返る機会を持つ。</p>
授業の概要	<p>21世紀を迎えた最初の年、私たちが直面した現実はこの世界が平和ではないこと、政治経済のグローバリゼーションに伴う新たな宗教間の対立や国際的テロリズムの蔓延など、平和をめぐる問題の構造の急激な変化であった。</p> <p>これらの新たな紛争の原因を明らかにすること、現状に基づいた新たな平和研究の取り組みが今、必要とされている。「平和」や「暴力」など、根本的な概念を理論的レベルで再考すると同時に、それらが私たちの日常生活でどのような意味を持つのか、様々な側面から「平和」を考える。その一環として沖縄の米軍基地問題から身近に存在する暴力と平和についても学習する。またキリスト教の視点から世界平和について考えてみる。</p>

予習	次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史的事実などについて調べておくこと。
復習	回次の講義との関連性において重要だと思う点を再確認しておくこと。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。平和の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも平和の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や授業で取り扱う地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。

講義科目名称：国際ボランティア論

授業コード：

英文科目名称：International Volunteer Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
玉城 直美			

授業のテーマ及び到達目標	<p>国際ボランティア活動の意味と意義を理解しながら、社会活動への参加を促す。今年は5年に一度開催される世界のうちなーんちゅ大会が10月27～30日に行われる。世界中からやってくるうちなーんちゅとつながりのある県系人のためのボランティア活動を計画している。</p> <p>知識理解：国際ボランティア活動の中身や流れを理解する 関心意欲：地域社会で行われている活動に関心を寄せることができる 思考判断：国際ボランティア活動の抱える課題や取り組みに対し個人的な判断を持つことが出来る 態度：授業への積極的な参加および自主学習への取り組み</p>		
授業計画	<p>第1回 国際ボランティアの意義と必要性（WS、講義）</p> <p>第2回 マザーテレサにみる国際ボランティア活動について</p> <p>第3回 民間の活動にみる国際ボランティア活動①</p> <p>第4回 民間の活動にみる国際ボランティア活動②</p> <p>第5回 国境を超える感染症、国際ボランティアの活動</p> <p>第6回 社会派映画にみる国際ボランティア活動</p> <p>第7回 教育と国際ボランティア活動</p> <p>第8回 福祉、循環型社会にみる国際ボランティア活動</p> <p>第9回 青年海外協力活動にみるボランティア活動</p> <p>第10回 在住外国人との多文化共生～沖縄のNGOの取り組み～</p> <p>第11回 大震災にみる国際ボランティア活動①</p> <p>第12回 大震災にみる国際ボランティア②</p> <p>第13回 フィールドワーク活動：地域在住外国人のたの避難訓練①</p> <p>第14回 フィールドワーク活動：地域在住外国人のたの避難訓練②</p> <p>第15回 講義まとめ</p>		
授業の概要	<p>国内のボランティアに加え、なぜ人は国境を超えて活動するのだろうか？ボランティアの意義、特性、これまでの歴史や活動内容を分野ごとに整理して学んでいく。国境を越えて、または国内の中で行えるボランティア活動について学び合い、人と人が出会い、様々な価値観が触れ合い、互いに学び合う豊かな経験の可能性を持つことについて学ぶ。</p> <p>今年は5年に一度開催される世界のうちなーんちゅ大会に因んで、ボランティア活動およびフィールドワーク学習の成果を授業内にてまとめる。</p>		
予習	<p>本授業の中で一度はどちらかの組織・団体でボランティア活動を行うこと。日々のニュースの中でのボランティア活動に関心を持つこと。</p>		
復習	<p>授業で取り上げた課題に関して、より深い学びにつながるようにその課題を探求する努力を行うこと。</p>		
テキスト	<p>適宜プリントを配布</p>		
参考書	<p>講義においてそのつど提示する。</p>		
評価方法・評価基準	<p>参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。授業内レポート30% その他校外学習等への参加度30% 授業態度・授業への参加度20% 受講者の発表20%</p>		
履修上の注意	<p>校外学習に参加できない場合、別途課題提出を行うので自ら申し出ること</p>		

講義科目名称：メディア・リテラシー

授業コード：

英文科目名称：Media Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
崎原 千尋			

授業のテーマ及び到達目標	メディアの使い方・読み取り方について学ぶ 知識理解：メディア・リテラシーを理解する 関心意欲：メディアのあり方に対して疑う意欲をもつ 思考判断：メディアを批判的に捉える自己見解能力を持つ 態度：メディアを読み取り、活用する方法を身につける。
授業計画	第1回 インTRODクシヨン メディアと私たち 第2回 メディア・リテラシーとは 第3回 コンピューター・リテラシーとデジタルデバイド（情報格差） 第4回 マスメディアの歴史 第5回 ソーシャルネットワークサービスとリテラシー 第6回 CNNとアルジャジーラ 第7回 マクルーハンとメディア論 第8回 戦争とメディア 第9回 ジャーナリズムと報道 第10回 「語られない情報」とは 第11回 情報・印象操作と表現その1 第12回 情報・印象操作と表現その2 第13回 メディア・リテラシー教育の現在 第14回 これからのメディアのあり方 第15回 SNSの社会心理学 第16回 総括
授業の概要	情報の流通が多量・高速化する現在、その媒体（メディア）を読み解き使いこなす能力（メディア・リテラシー）が重要となっている。メディアの特性を理解し、その内容を批判的に捉え、単に情報を受け取るだけでなく、あらゆるソーシャルメディアを活用し、発信していく力を身につける。
予習	次回の内容予告を受け、専門用語や概念などを調べておくこと。
復習	次回の授業の連続性を考えながら、内容の再確認をおこなうこと。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	レポートやエッセイを課す。授業への参加のみならず、積極的なワークショップ等への参加も評価へ加味する。 小テスト・授業内レポート50% 受講者の発表20% その他調査20% 授業態度10%
履修上の注意	文化人類学を履修していること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
新垣 友子			

授業のテーマ及び到達目標	英語の構造と機能について理解を深める。語学としての英語ではなく、一般言語学、理論言語学という幅広い学問の一部として英語を分析する方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 Introduction English Linguistics(英語学) というのは、どういう学問か、一般的な語学としての英語学習と何が違うのか。また、英語学を学ぶことによってどのような発見があるのか。</p> <p>第2回 Why Study English Linguistics① Knowledge of Language, What is English linguistics?, Components of Grammar(morphology, semantics, syntax, phonetics and phonology)</p> <p>第3回 Why Study English Linguistics② Subfields of Linguistics, How English has been studied? (Traditional Grammar, Structural Linguistics, Generative Grammar, Cognitive Linguistics)</p> <p>第4回 How Words Are Made: Morphology① Dividing words into parts, Compounding(Compound Stress Rule, Phrasal Stress Rule, Right-hand Head Rule)</p> <p>第5回 How Words Are Made: Morphology② Compounding(Semantic Compositionality, Binary Branching Constraint) Derivation</p> <p>第6回 How Words Are Made: Morphology③ Conversion, Inflection, Minor Word Formation Processes(Clipping, Blending, Acronym, Initialism)</p> <p>第7回 How Words Mean; Semantics I① Kinds of meaning(conceptual meaning, associative meaning), Meaning as a set of properties, Categorization and prototypes(The Sapir-Whorf Hypothesis)</p> <p>第8回 How Words Mean; Semantics I② Semantic Networks(hyponymy, meronymy), Synonyms and antonyms, Polysemy, Metaphor and metonymy</p> <p>第9回 Review (1) 1-8 Comprehension Check and Exercises</p> <p>第10回 How Sentences Mean : Semantics II① Semantic Roles and argument structure(Agent, Patient, Goal, Source)</p> <p>第11回 How Sentences Mean : Semantics II② Selectional restrictions, Constructional meaning(locative alternation, dative alternation, dative construction, double object construction)</p> <p>第12回 How Sentences Mean : Semantics II③ Word order and information(topicalization, Principle of End Focus), What do pronouns refer to?(personal pronouns, reflexive pronouns)</p> <p>第13回 How to Communicate with Other People: Pragmatics① What is pragmatics? Formal vs. Informal style, Politeness(Tact Maxim, negative face, positive face, colloquial ellipsis)</p> <p>第14回 How to Communicate with Other People: Pragmatics② Speech acts, Indirect speech acts, Conversational implicature, The co-operative principle</p> <p>第15回 Review (2) 10-14 Comprehension Check and Exercises</p> <p>第16回 Final Examination</p>
授業の概要	英語学概論Ⅰで学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。特に英語学概論Ⅰで深く扱えなかった形態論、意味論、語用論の分野に焦点を当てる。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。
予習	決められた章を読んで、事前に配布する問題を解く。英文をしっかりと読み解き、英語学概論Ⅰで学んだ専門用語の確認もしておくこと。
復習	授業で行う議論・解答を参考に内容を再度確認する。
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	影山太郎他(2004) "Introduction to English Linguistics" 2nd ed. くろしお出版
評価方法・評価基準	授業態度や授業への参加度(10%)、課題や練習問題(30%)、期末テスト(60%)の結果を総合的に判断する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学概論Ⅰを履修しておくこと。 ・予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。 ・教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
浜川 仁			

授業のテーマ及び到達目標	英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。		
授業計画	第1回	教養とは何か（英文学史の意義） 近年、一般教養を学ぶ意味が問われるようになってきているが、世界史において近代をリードしたイギリスの歴史と文学への導入を通して、一般教養の意義をめぐる問題提起とする。	
	第2回	黎明期のイギリス——叙事詩 ケルト社会からはじまり、ローマによる支配、アングロサクソン人たちの定住をへて、ノルマン・コンクエストにいたる歴史を概説する。文学作品については、『ベオウルフ』、「十字架の夢」の紹介を行う。	
	第3回	法の支配——チョーサー ヘンリー2世とカンタベリ大司教のトマス・ベケットの確執を通して、国家と宗教の間でいかなる問題がもたらがったのか、その結果どのようにイギリスにおいて「法の支配」が始まったのかを概観する。作品については、チョーサーの『カンタベリ物語』を中心に扱う。	
	第4回	ペストと反乱——バラッドや道徳劇 14世紀半ばにペストが大流行し、ワット・タイラの乱が起こるが、こうした社会変動を通して、イギリスにジェントリ階級が登場したいきさつを概観する。作品については、バラッドや道徳劇『エヴリマン』等を紹介する。	
	第5回	宗教改革——シェークスピア 16世紀にカトリックの国からプロテスタントの国へ様変わりしたイギリス——その激変を生き抜いたアン・ブーリン、メアリ・スチュアート、エリザベス女王という3人の女たちの生きざまを通して、イギリスの宗教改革を概観する。作品についてはシェークスピアのソネットや喜劇『お気に召すまま』を紹介する。	
	第6回	古代、中世、ルネッサンス期の文学 第1回から第5回の講義をふりかえり、チョーサー、スペンサー、シェークスピア等をふたたび取り上げ、とくにイギリス詩の形式や韻律の構造などを概説する。	
	第7回	ピューリタン革命——ジョン・ミルトン 清教徒（ピューリタン）革命から共和制をへて、王政復古にいたるまでの内乱の時期を概観する。作品については、ミルトンの『失樂園』やジョン・ダン、アンドルー・マウヴェルの詩を取り上げる。	
	第8回	名誉革命——ポーブとスィフト 共和制末期から、王政復古、そして名誉革命までの歴史を概観し、イギリスが18世紀後半から19世紀にかけて「大英帝国」として繁栄することになる基礎がこの17世紀後半につくられたことを説明する。文学については、ポーブのヒロイック・カプレットとスィフトの風刺作品を紹介する。	
	第9回	革命の時代——プレロマン アメリカ合衆国の独立、フランスとの戦争を通して、イギリスがいかに世界をリードしたかを概観する。文学としては、ジェイムズ・トムソンやウィリアム・ブレイク等を中心に紹介する。	
	第10回	ロマン主義文学（第1世代） ワーズワースとコールリッジの中心に、ロマン派第1世代の人生と作風、哲学を説明する。	
	第11回	ロマン主義文学（第2世代） シェリー、バイロン、キーツといったロマン派文学第2世代の人生と作風、哲学を説明する。	
	第12回	ロマン主義と沖縄 ロマン主義文学が花咲いていた1916年に琉球（沖縄）へやってきたバジル・ホルの『琉球・朝鮮航海記』を中心に、当時の沖縄がどのようにイギリスで紹介されていたのか詳説する。	
	第13回	パックス・ブリタニカ——アーノルド、他 アヘン戦争をへて万国博覧会の開催、インドの支配などを通して、ビクトリア朝のイギリスがいかに世界に君臨したかを概説する。文学については、マシュー・アーノルドを中心に紹介する。	
	第14回	ラファエロ前派とワイルド ラファエロ前派のロゼッティ兄妹とオスカー・ワイルドの人生と作風を概観し、とくにワイルドのウィットに富んだ警句を紹介する。	
	第15回	戦争の世紀——エリオット、ベケット、他 20世紀の前半に、世界がどのように大戦を2度も経験したのか概観する。文学については、T・S・エリオットやベケットの紹介を行う。	
	第16回	まとめと期末エッセイ イギリスの歴史と文学について学んだことを振り返りながら、一般教養の意義をめぐる問題を再考する。講義で学んだことをもとに期末テストとしてエッセイを書いてもらう。	
授業の概要	古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。		
予習	該当する章を読み、テキスト中の代表的作品の抜粋についても目を通しておく。		
復習	講義とハンドアウトを参考に、とくに解説の加えられた作品を再読する。		

テキスト	神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス史』（ミネルヴァ書房）
参考書	ハンドアウトなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。
評価方法・評価基準	学習メモ50%、期末エッセイ50%
履修上の注意	文字・ビジュアル情報の多いクラスなので、集中力を高めてしっかり講義についてきてほしい。

講義科目名称：国際理解教育

授業コード：

英文科目名称：Global Issues in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
玉城 直美			

授業のテーマ及び到達目標	<p>国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学ぶ 知識理解：国際理解のもつテーマを学ぶ 関心意欲：学びのプロセスに積極的に参加し、現在のニュースへの関心を寄せられるようになる 思考判断：教育テーマについて深く掘り下げる 態度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加、最終的には教材作成が出来ることを重視する</p>		
授業計画	第1回	<p>国際理解教育の始まりについて・講義 ねらい：国際理解教育の本科目についての共有理解、授業の始まりにむけてお互いの期待を共有 ・本授業のシラバス内容確認 ・評価、出席、テストの有無等確認 ・担当教員の国際理解教育における専門について ・グループワーク①：「あなたがこれまで体験・受講してきた国際理解教育」共有 ・グループワーク②：本授業で目指す・作っていききたい国際理解教育「こんな学びがあったらよいな」</p>	
	第2回	<p>戦争と国際理解教育 ねらい：国際理解教育はなぜ必要なのか、そのはじまりを知る。日本の教育現場における本教育の重要性について学ぶ ・グループワーク①：国際理解教育はなぜ必要か？ ・国際理解教育と戦争の関係、戦争から始まる教育（VTR） ・日本の教育における「国際理解教育」の取り扱い、文部科学省の指導要領 ・グループワーク②：世界で起きている紛争、移民、難民問題、ヘイトスピーチからみえること、国際理解・民際理解について</p>	
	第3回	<p>世界がもし100人の村だったら ねらい：せかいの現状を100の割合になおし、ロールプレイ等のゲームで体験する。 ・世界を100人の村にしてみる中みえること ・男女の比率は？ ・世代の比率は？ ・世界の言語はどうなっているの？ ・文字が読めないとどうなるの？ ・富を分配するとどうなるの？ ・世界がもし100人の村だったら（詩の輪読） ゲームの振り返り・大事にしたいこと これを授業に取り入れることのポイント、共有</p>	
	第4回	<p>携帯の一生 ケータイを通して知る 私と世界のつながり ねらい：携帯を通して世界とつながる。携帯の中の部品が世界中の鉱物資源を輸入して作られている現状をしり、消費と世界の環境・紛争の結びつきを知る。 ・グループワーク①：「携帯の良し悪し」「携帯でできること」話し合い ・携帯クイズ ・グループワーク②：携帯販売のためのチラシから見えてくること、メディアリテラシー ・携帯と世界のつながり：脅かされる資源を奪い合う開発途上国（VTR） ・グループワーク③：携帯と私たちの生活の関係、よりよく付き合っていくためには</p>	
	第5回	<p>沖縄と世界を結ぶ国際理解①～世界のウチナーンチュを教材として体験～ ねらい：わたしたち沖縄はよくチャンプルー文化、世界に開かれた島だと言われているが、ほんとうにそうだろうか？その事実を学ぶ一つに「沖縄移民」の歴史から現在の日系人につながるものがある。「沖縄移民」にまなぶ沖縄と世界のつながりを知り、教材を体験する。 ・写真にみる沖縄移民の歴史 ・体験記にみる一人ひとりの生き方 ・「移民小唄」から現在のポップミュージック。音楽を通して知る「移民の意味」 ・世界ウチナーンチュの日について（ワーク&VTR） ・世界のウチナーンチュ大会（VTR）</p>	
	第6回	<p>沖縄と世界を結ぶ国際理解①～世界のウチナーンチュを教材として体験～ ねらい：前週に続く学びに加え、地域教材を通して国際理解教育を教える意味学ぶ ・さおりの学び ・グループ討論：教材を通して学んだこと ・グループ教材作成体験：沖縄移民から日系人までを学校現場で教えるとしたら？ ・グループ発表 上記共有</p>	
	第7回	<p>たずねてみよう！カレーの世界 スパイスと食文化の多様性表 ねらい：食文化、風土、文化、宗教、気候これらは全て切り離せることなく、融合し合ってそれぞれの食文化がなりたっていることを知る。 ・個人ワーク：我が家の自慢のカレー ・グループワーク：スパイス・カレーにみるアジアの食文化 ・食の作法：カトラリー・手職・橋食の文化について</p>	
	第8回	<p>アジアのカレーを食す（予定）調理実習 ねらい：前週に習った食に関する教材を元に、2か国の異なるカレーの調理実習を行い、試食まで行う。 ・予定：インドカレー、タイカレーを調理実習する予定。</p>	
	第9回	<p>アジアのカレーを食す（予定）調理実習 ねらい：予定では上記と併せて二コマ使用予定。</p>	

第10回	<p>社会派映画に観る国際理解 ねらい：映像にみる世界、国際理解教育の学びとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育に関連する社会派の映画鑑賞 ・グループ振り返り
第11回	<p>自己肯定感を高めるワークショップ ねらい：国際理解教育というと、他国、大きなものの理解が真っ先に浮かびますが、私自身を知り、自己肯定できるプロセスが出来てその次に他者であり、他国理解につながるということを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク：あなたの生い立ちの中で築き上げてきた自己理解、自己肯定感の確認 ・グループワーク①：自己肯定感を知るワークショップ体験（2～3のワーク） ・グループワーク②：自己肯定感とは何か？ ・講義：自己肯定感はなぜ大事なのか？ ・本講義、振り返り
第12回	<p>教材の作り方（講義・グループワーク） ねらい：国際理解教育の授業を学校現場で取り入れていくためのプロセスを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の学習指導要領との関係、授業の流れ作成、ねらい、対象者を絞り込んだ教材開発の重要性を知る。 ・グループワーク①：実際にグループでテーマを決めて授業の流れを作成
第13回	<p>学生による教材作成ワークショップ発表会① ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。 ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること ・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。
第14回	<p>学生による教材作成ワークショップ発表会② ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。 ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること ・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。
第15回	<p>まとめ 振り返り ねらい：半期授業の振り返りを行い、何を学び、何を実際の授業に活かしていけるのか、個人および全体で振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び残したアクティビティを短く体験 ・これからの国際理解教育、大事にしたいこと
授業の概要	<p>「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」この文はユネスコ憲章全文である。今年は、概ね5年に一度の世界のウチナンチュ大会であり、本大会および各国県人会（会員）との交流も予定しており、沖縄の地元教材の制作に臨む。</p>
予習	<p>世界を知る努力の為に自分は何が出来るのか、計画を立て、予習計画を作成すること</p>
復習	<p>授業の中で取り上げた課題を理解するために、ニュース等さらに自己探求を深め、課題、発表等に活かすこと</p>
テキスト	<p>適宜プリントを配布</p>
参考書	<p>講義においてそのつど提示する。</p>
評価方法・評価基準	<p>参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（25%）、課題（レポート）（30%）、教材発表（35%）、授業への・積極的発言（10%）</p>
履修上の注意	<p>フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマ連続となります。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表（最後の授業プラン作り）を重視しているため、国際的な知識を身に付けた学生の参加を重視する。</p>

講義科目名称：多読 I

授業コード：

英文科目名称：Extensive Reading I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
作田真由子・仲座栄利子			

授業のテーマ及び到達目標	この授業の目的は自分のレベルにあった英文を、ある程度のスピードを持って読むことで、読書の楽しみと達成感を得るとともに、大量の英文をインプットすることで、自然な形で英語の語彙や文法を習得していくことである。英文を読む習慣をつけること、大意を把握する能力の向上もねらいの一つである。教材としては Graded Readers を用いる。この教材は種々の題材で書かれていて、かつレベル分けがされているため、学生が自分で興味あるトピックを選ぶことができ、かつ自分のレベルにあったものを選ぶことができる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN+リーディング</p> <p>第2回 リーディング</p> <p>第3回 リーディング</p> <p>第4回 リーディング</p> <p>第5回 リーディング</p> <p>第6回 リーディング</p> <p>第7回 リーディング</p> <p>第8回 リーディング</p> <p>第9回 リーディング</p> <p>第10回 リーディング</p> <p>第11回 リーディング</p> <p>第12回 リーディング</p> <p>第13回 リーディング</p> <p>第14回 リーディング</p> <p>第15回 リーディング</p>
授業の概要	<p>毎回、図書館の多読室で、自分の興味とレベルにあった教材を選び、次の3原則を守りながら読む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しみながら読む。つまらなければ止めて、別の教材を選ぶ。 2. 辞書は引かない。(引かなくてもわかる本を読む。) 3. わからないところは飛ばして先へ進む。(話の流れがわかればOK。) <p>1冊読み終わると簡単なレポートを書く。そのレポートと読破した総語数を学期末に教員に提出する。</p>
予習	時間の許す限り読む
復習	時間の許す限り読む
テキスト	Graded Readers
参考書	辞書、英文法参考書
評価方法・評価基準	課題レポート100%
履修上の注意	自分のレベルに合わせて意欲を持って読む。日ごろから語彙力、文法力をあげておく。

講義科目名称：多読 II

授業コード：

英文科目名称：Extensive Reading II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
仲座 栄利子			

授業のテーマ及び到達目標	多読 I と同様、この授業の目的は自分のレベルにあった英文を、ある程度のスピードを持って読むことで、読書の楽しみと達成感を得るとともに、大量の英文をインプットすることで、自然な形で英語の語彙や文法を習得していくことである。英文を読む習慣をつけること、大意を把握する能力の向上もねらいの一つである。教材としては Graded Readers を用いる。この教材は種々の題材で書かれていて、かつレベル分けがされているため、学生が自分で興味あるトピックを選ぶことができ、かつ自分のレベルにあったものを選ぶことができる。多読 I をすでに履修した学生は I の上に、読む速度と読解力のさらなる向上を目指してもらう。多読に初めて触れる学生は 3 原則を守りながら、読む技術を習得してもらう。
授業計画	<p>第 1 回 インTRODクシヨン+リーディング</p> <p>第 2 回 リーディング</p> <p>第 3 回 リーディング</p> <p>第 4 回 リーディング</p> <p>第 5 回 リーディング</p> <p>第 6 回 リーディング</p> <p>第 7 回 リーディング</p> <p>第 8 回 リーディング</p> <p>第 9 回 リーディング</p> <p>第 10 回 リーディング</p> <p>第 11 回 リーディング</p> <p>第 12 回 リーディング</p> <p>第 13 回 リーディング</p> <p>第 14 回 リーディング</p> <p>第 15 回 リーディング</p>
授業の概要	<p>毎回、図書館の多読室で、自分の興味とレベルにあった教材を選び、次の 3 原則を守りながら読む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しみながら読む。つまらなければ止めて、別の教材を選ぶ。 2. 辞書は引かない。(引かなくてもわかる本を読む。) 3. わからないところは飛ばして先へ進む。(話の流れがわかれば OK。) <p>1 冊読み終わると簡単なレポートを書く。そのレポートと読破した総語数を学期末に教員に提出する。</p>
予習	時間の許す限り読む
復習	時間の許す限り読む。
テキスト	Graded Readers
参考書	辞書、英文法参考書
評価方法・評価基準	課題レポート 100%
履修上の注意	自分のレベルに合わせて意欲を持って読む。日頃から語彙力、文法力をあげておく。

講義科目名称：コトバと論理

授業コード：

英文科目名称：Language and logic

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：論理的な文章に親しむ 思考判断：ロジカルシンキングとクリティカルシンキングを鍛える 関心意欲：言葉への完成の感度を高める 態度：社会と対峙するために「読む」「書く」という姿勢</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 「日本語を磨くとは」</p> <p>第2回 マッピング思考法 「コトバと社会」</p> <p>第3回 社会の根っこを考える「貧困について」</p> <p>第4回 読書とキャリア（1）</p> <p>第5回 読書とキャリア（2）</p> <p>第6回 情報の読み取りと発信（1）「説明書」 ※第2回～9回はリサーチ・ペーパーを作成するための基礎力養成</p> <p>第7回 情報の読み取りと発信（2）「企画書」</p> <p>第8回 クリティカルシンキング（1）「メディアについて」</p> <p>第9回 クリティカルシンキング（2）「コミュニティ・プラン」</p> <p>第10回 ロジカルシンキング（1）「論理的な文章の構成」</p> <p>第11回 ロジカルシンキング（2）「論理的な文章の作成練習」</p> <p>第12回 ロジカルシンキング（3）「リサーチ・ペーパーへの取り組み」</p> <p>第13回 ロジカルシンキング（4）「リサーチ・ペーパーへの取り組み」</p> <p>第14回 ロジカルシンキング（5）「リサーチ・ペーパーへの取り組み」</p> <p>第15回 まとめとふりかえり</p>
授業の概要	リサーチ・ペーパー作成を通し、論理的思考力を育成し、社会人基礎力を鍛える
予習	シラバスを確認し、講義内容についての知識を整えておくこと
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	講師作成資料を配布。
参考書	講義にて紹介
評価方法・評価基準	<p>1 毎回のフィードバックレポート提出 30%</p> <p>2 課題への取り組みと試験 70%</p>
履修上の注意	・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください

講義科目名称：異文化共生

授業コード：

英文科目名称：Cross-cultural Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
柳田 正豪			

授業のテーマ及び到達目標	高度な英語運用能力とプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。
授業計画	<p>第1回 異文化とは</p> <p>第2回 沖縄の文化</p> <p>第3回 沖縄の歴史</p> <p>第4回 プレゼンテーション1</p> <p>第5回 プレゼンテーション1</p> <p>第6回 異文化の理解+個人プロジェクト2</p> <p>第7回 異文化の理解+個人プロジェクト2</p> <p>第8回 異文化の理解+個人プロジェクト2</p> <p>第9回 プレゼンテーション2</p> <p>第10回 プレゼンテーション2</p> <p>第11回 異文化の理解+個人プロジェクト2</p> <p>第12回 異文化の理解+個人プロジェクト2</p> <p>第13回 異文化の理解+個人プロジェクト2</p> <p>第14回 プレゼンテーション3</p> <p>第15回 プレゼンテーション3</p> <p>第16回 プレゼンテーション3</p>
授業の概要	英語で沖縄の文化・伝統をプレゼンテーションする。また異国の文化・伝統も英語でプレゼンテーションしてもらう。プレゼンテーションを通して異文化の理解を深めるとともに、高度なコミュニケーション能力も身につけてもらう。
予習	毎プレゼンテーションの準備を怠らないこと。
復習	毎講義で学習したプレゼンテーション技能を復習すること。
テキスト	適宜プリントを配付、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	Successful Presentation An Interactive Guide Mark D. Stafford
評価方法・評価基準	パワーポイントの資料作成 (20%) プレゼンテーションのデリバリーヤスキル (60%) 小クイズ (20%)
履修上の注意	ハワイ研修・台湾研修に参加する学生は必ず履修すること

講義科目名称：Shadowing (Listening)

授業コード：

英文科目名称：Shadowing (Listening)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(0-2)	選択必修D
担当教員			
城間 仙子			

授業のテーマ及び到達目標	より「伝わる音声」を習得する。またこれにより、リスニング力も向上させる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 音読1</p> <p>第3回 音読2</p> <p>第4回 音読3</p> <p>第5回 音読4</p> <p>第6回 シンクローディング1</p> <p>第7回 シンクローディング2</p> <p>第8回 シンクローディング3</p> <p>第9回 シャドーイング演習1</p> <p>第10回 シャドーイング演習2</p> <p>第11回 シャドーイング演習3</p> <p>第12回 シャドーイング演習4</p> <p>第13回 総合演習1</p> <p>第14回 総合演習2</p> <p>第15回 総合演習3</p> <p>第16回</p>
授業の概要	この授業では、一般の外国語学習者を対象にシャドーイングの訓練を行う。受動的なリスニング練習とは異なり、リスニングをしながら実際に自分の口や舌を動かして発声することにより、能動的な英語学習となる
予習	音読と発音の自習
復習	LL機器を用いて自習
テキスト	時事問題や平和教育を意識した資料を担当教員が配付する
参考書	なし
評価方法・評価基準	授業中のパフォーマンスや課題の提出 100%
履修上の注意	USBメモリを持参すること

講義科目名称：英作・文法 I (夏期集中講義)

授業コード：

英文科目名称：Eng. grammar through Comp. I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期 (夏期集中)	1年	2単位	選択必修B
担当教員			
仲座 栄利子			

授業のテーマ及び到達目標	文の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。
授業計画	<p>第1回 文の種類：英語の語順、他</p> <p>第2回 動詞と文型：動詞の使い方と文型、他</p> <p>第3回 動詞と時制：「時」をどのように表すか、他</p> <p>第4回 完了形：完了形が表す意味、他</p> <p>第5回 助動詞：助動詞の役割、他</p> <p>第6回 態：受動態の形と意味、他</p> <p>第7回 不定詞：不定詞とは、他</p> <p>第8回 動名詞：動名詞とは、他</p> <p>第9回 分詞：分子とは、他</p> <p>第10回 比較：何と何を比較するのか、他</p> <p>第11回 関係詞：関係代名詞と関係副詞、他</p> <p>第12回 仮定法：「仮定法」と動詞の形、他</p> <p>第13回 疑問詞と疑問文：疑問文の形、他</p> <p>第14回 否定：英語で否定を表す、他</p> <p>第15回 話法：発言内容の伝え方、他</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	英文を書く練習を通して既習の基本的な文法事項を復習・再確認させ、定着を図る。
予習	テキストを読んで理解しておく。できれば、他の英文法参考書も見る。
復習	既習の事項を見直し、わからなかったところをチェックする。
テキスト	Forest、桐原書店、第7版、2016
参考書	特になし
評価方法・評価基準	試験：60% 授業態度：20% 発表：20%
履修上の注意	テキストと辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること

講義科目名称 : Making a Newspaper

授業コード :

英文科目名称 : Making a Newspaper

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択必修B
担当教員			
Michael Bradley			

授業のテーマ及び到達目標	By the end of this course students' overall level of English will have improved because they will have had to use all four skills - reading, writing, listening and speaking - in every class. They will also have learned how to compile a newspaper and will have gained confidence from that experience. (主としてライティングの技能を磨くが、他の技能も実践的に駆使して英語力を高める。また、どのようにして新聞記事を作成するかも学び、実地の経験から自信を得る)
授業計画	<p>第1回 Introduction. How news articles are structured and how that structure differs from academic writing.</p> <p>第2回 How the various sections of a newspaper differ from each other: news versus opinion pieces versus editorials.</p> <p>第3回 The layout of the newspaper. Students decide how the paper will be organized? what sections it should be divided into.</p> <p>第4回 First editorial meeting? Students decide the content of the first issue and begin research.</p> <p>第5回 Students conduct interviews for their articles.</p> <p>第6回 Students sub-edit the articles and prepare for publication.</p> <p>第7回 Second editorial meeting? Students decide the content of the second issue and begin research.</p> <p>第8回 Students conduct interviews for their second articles.</p> <p>第9回 Students sub-edit the second articles and prepare for publication.</p> <p>第10回 Third editorial meeting? Students decide the content of the third issue and begin research.</p> <p>第11回 Students conduct interviews for their third articles.</p> <p>第12回 Students sub-edit the third articles and prepare for publication.</p> <p>第13回 Fourth editorial meeting? Students decide the content of the fourth issue and begin research.</p> <p>第14回 Students conduct interviews for their fourth articles</p> <p>第15回 Students sub-edit the fourth articles and prepare for publication.</p>
授業の概要	The purpose of this course is to get students to produce their own newspaper which other people on campus will hopefully be interested in reading. The students will take responsibility for the entire process, from generating story ideas, to writing articles, to sub-editing and page lay-out. (このクラスの目的は、学生たちが、キャンパス内の人々に興味を持って読んでもらえる独自の新聞を作ることである。学生たちはトピックの選択、記事の執筆、編集、ページレイアウトなどすべてのプロセスに責任を持つ。)
予習	Students will need to come to class with ideas for possible stories. (学生はトピックのアイデアをあらかじめ考えてクラスに来ること。)
復習	Students will have to conduct some interviews outside class time. (学生たちは授業時間外にインタビューを行う。)
テキスト	No textbook, It is recommended that students bring their own memory sticks/flash drives where they can save their work.
参考書	特になし

評価方法・評価基準	Assignments/Classwork: 80%. Attitude in class 20%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：キャリア・レッスン

授業コード：

英文科目名称：Carrier lesson

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(1-1)	選択科目
担当教員			
上原 明子			

授業のテーマ及び到達目標	「ステキな社会人」、「求められる人」になるため、また自分のキャリアを追い求めるために必要な知識やスキルを学び、実践できるようになる。
授業計画	<p>第1回 また会いたいと思わせる、マナーを身につける（ビジネスマナー）</p> <p>第2回 キャリア支援課ツアー/自分を知ろう（自己分析）</p> <p>第3回 文章で伝えるあなたの魅力（履歴書の書き方）</p> <p>第4回 仕事について知ろう</p> <p>第5回 社会のしくみを知ろう</p> <p>第6回 未来の自分をイメージしよう</p> <p>第7回 ラブレターを書いてみよう（志望動機）</p> <p>第8回 みんなが知りたい筆記試験のポイント</p> <p>第9回 ・ステキな声の出し方、話し方 ・ロジカルシンキングとは？</p> <p>第10回 新聞の読み方</p> <p>第11回 面接力UP</p> <p>第12回 ・人生とお金の関係 ・働く時に必要な法的知識</p> <p>第13回 キャリア イングリッシュ ①</p> <p>第14回 キャリア イングリッシュ ②</p> <p>第15回 ふり返り</p>
授業の概要	社会人としてのスタートを切るために必要な知識やスキルを総合的に学ぶ。分野に応じてそれぞれの専門家を招き、オムニバス形式で授業を行う。
予習	シラバスを確認し、授業部分のテキストを読んでおくこと
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	『JOB HUNTING GUIDE BOOK』沖縄キリスト教短期大学
参考書	—
評価方法・評価基準	小テスト・授業内レポート：60% 受講者の発表：20% 演習：20%
履修上の注意	—

講義科目名称：英語講読Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-4)	選択必修C
担当教員			
玉城 要・山里 恵子			

授業のテーマ及び到達目標	パラグラフごとに大意をつかみ、長文であっても内容を把握できる。読解を通して語彙力、文法力も強化する。		
授業計画	第1回	イントロダクション、Unit 1 The Cost of Cool	
	第2回	Unit 1 The Cost of Cool	
	第3回	Unit 1 The Cost of Cool	
	第4回	Unit 2 As Biofuel Demand Grows, So Do Guatemala's Hunger Pangs	
	第5回	Unit 2 As Biofuel Demand Grows, So Do Guatemala's Hunger Pangs	
	第6回	Unit 2 As Biofuel Demand Grows, So Do Guatemala's Hunger Pangs	
	第7回	Unit 3 As China Age, Beijing Turns to Morality Tales to Spur Filial Devotion	
	第8回	Unit 3 As China Age, Beijing Turns to Morality Tales to Spur Filial Devotion	
	第9回	Unit 3 As China Age, Beijing Turns to Morality Tales to Spur Filial Devotion	
	第10回	Unit4 Swedish School's Big Lesson Begins With Dropping Personal Pronouns	
	第11回	Unit4 Swedish School's Big Lesson Begins With Dropping Personal Pronouns	
	第12回	Unit4 Swedish School's Big Lesson Begins With Dropping Personal Pronouns	
	第13回	Unit5 Making A Child, Minus the Couple	
	第14回	Unit5 Making A Child, Minus the Couple	
	第15回	Unit5 Making A Child, Minus the Couple	
	第16回	Unit6 An Ugly Toll of Technology: Impatience and Forgetfulness	
	第17回	Unit6 An Ugly Toll of Technology: Impatience and Forgetfulness	
	第18回	Unit6 An Ugly Toll of Technology: Impatience and Forgetfulness	
	第19回	Unit7 sry gotta bail mayb nxt tme	
	第20回	Unit7 sry gotta bail mayb nxt tme	
	第21回	Unit8 In High-Tech Japan, the Fax Machines Roll On	
	第22回	Unit8 In High-Tech Japan, the Fax Machines Roll On	
	第23回	Unit9 Firm Brings Gene Tests to Masses	
	第24回	Unit9 Firm Brings Gene Tests to Masses	
	第25回	Unit10 How Long Do You Want to Live?	

	<p>第26回 Unit10 How Long Do You Want to Live?</p> <p>第27回 Unit11 More Men Enter Fields Dominated by Women</p> <p>第28回 Unit11 More Men Enter Fields Dominated by Women</p> <p>第29回 Unit12 Chinese Graduates Say No Thanks to Factory Jobs</p> <p>第30回 Unit12 Chinese Graduates Say No Thanks to Factory Jobs</p> <p>第31回 定期試験</p>
授業の概要	英語講読Ⅱで培った読解力をさらに高めるため、もう少し上級のレベルの英語で書かれたテキストを使用する。テキストに出てくる語句のテストをしたり、それらの語句を使って作文を書いたりする。テキストの内容に関連した副教材を使用することもある。
予習	語彙を調べて、内容をつかむ。わからない文法項目があれば、参考書で調べておく。
復習	語彙を覚える。関連する文法項目を文法書でもう一度確認する。
テキスト	喜多 留女 他 (著) Change and Conflict— Seeing the World through New York Times Articles (『ニューヨークタイムズの窓から』英宝社、2014年)
参考書	総合英語フォレスト (第7版)
評価方法・評価基準	定期試験60%、課題や小テスト40%
履修上の注意	辞書と英文法参考書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。